DENON

ホームシアターシステム

DHT-S500HD
DHT-E6000HD

AVサラウンドアンプ

AVC-S500HD

取扱説明書

※本書の操作説明に使っているボタンのイラストはリモコンのボタンです。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、「保証と修理について」（☞51 ページ）をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

⦸記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

内部に水などの液体や異物を入れない
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水をかけたり、濡らしたりしない
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ねじを外したり、分解や改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したら
機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない
こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

禁止

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に

接続のしかた

設定のしかた

再生のしかた

本機の設定状態や入力信号の情報などを確認する（Information） ……… 39

便利な機能

その他の情報 ……… 42

故障かな？と思ったら ……… 48

保障と修理について ……… 51

主な仕様 ……… 52

再生までのながれ

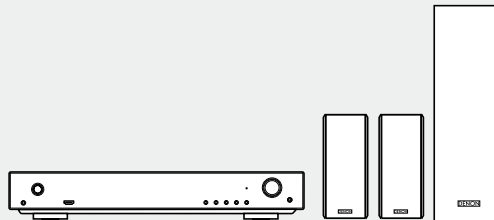
本機の再生までのながれは、次の順番でおこなってください。

システム構成

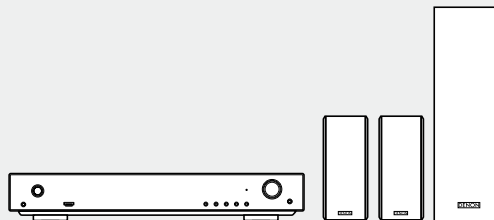
各システムは次のユニットで構成されています。
（本書は 3 モデル共通の取扱説明書です）

❑ DHT-S500HD　2.1 チャンネルホームシアターシステム

ユニット構成：

AVC-S500HD	**AV アンプ**
SC-AS500	**フロントスピーカー**
DSW-S500	**サブウーハー**

❑ DHT-E6000HD　2.1 チャンネルホームシアターシステム

ユニット構成：

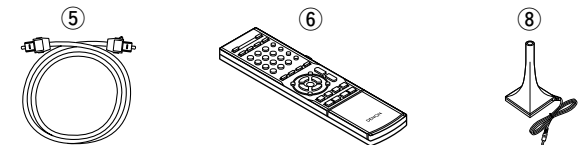
AVC-S500HD	**AV アンプ**
SC-AE6000	**フロントスピーカー**
DSW-S500	**サブウーハー**

❑ AVC-S500HD　AV アンプ

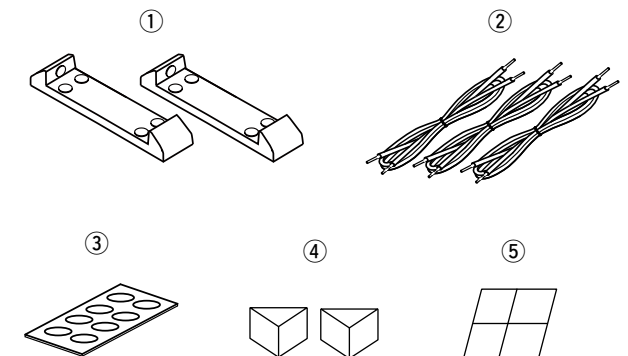
本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

付属品

ご使用の前にご確認ください。

AV アンプに同梱している付属品

① 取扱説明書（本書）........................1
② 簡単セットアップガイド........................1
③ 保証書（梱包箱に貼付）........................1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内........................1
⑤ 光伝送ケーブル（長さ：約 1m）........................1
⑥ リモコン（RC-1125）........................1
⑦ 単 4 形乾電池........................2
⑧ セットアップマイク
　（DM-A409、コードの長さ：約 7.6m）........................1

スピーカーシステムパックに同梱している付属品
（DHT-S500HD/DHT-E6000HD）

① サブウーハー用台座........................2
② スピーカーケーブル（長さ：約 3m）........................3
③ すべり止め（1 シート 8 枚）........................1
④ コーナーパッド........................2
⑤ 両面テープ........................4

準備

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切って１～２時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット

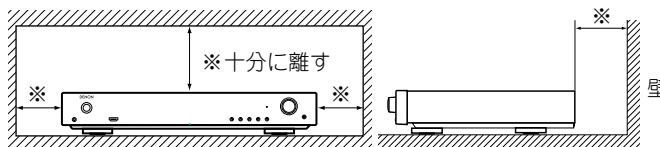
- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

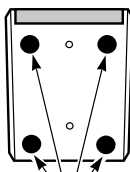
設置について

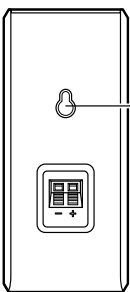
AVアンプの設置

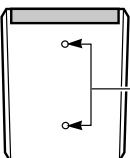
本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

警告

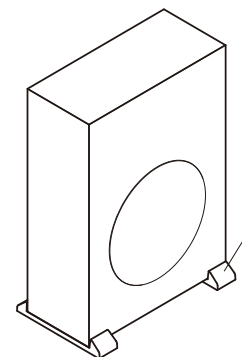
- スピーカーケーブルを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、ケーブルは必ず壁などに固定してください。
- ブラケットやスピーカースタンドを使って取り付ける際は、ブラケットやスピーカースタンドの説明書に従い、十分注意してしっかりと取り付けてください。
- 取り付け後は、必ず安全性を確認してください。また、その後定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故について当社はいっさいその責を負いません。

フロントスピーカーの設置

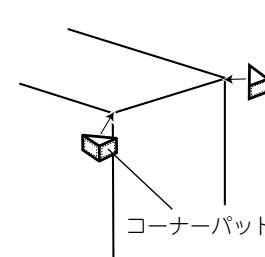
❑ **置いて使う場合**

付属のすべり止めを底面の４ヵ所に貼ってください。

❑ **壁に取り付ける場合**

背面にある壁掛け用フックを利用して、壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にねじ頭などを差し込みます。ねじは、スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。

❑ **別売りのスピーカースタンドやスピーカーブラケットを使う場合**

スピーカースタンド
ASS-80/ASS-100
スピーカーブラケット
ASG-10/ASG-20
取り付けねじ穴

サブウーハーの設置

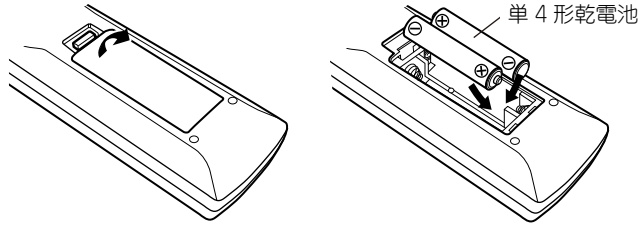
❑ **台座の取り付けかた**

付属のサブウーハー用台座をサブウーハーの前面と背面に合わせて取り付けてください。

❑ **コーナーパッドの取り付けかた**

小さなお子様がサブウーハーのコーナーにぶつかりけがをされないように、付属のコーナーパッドをサブウーハー天面前方の両側コーナーに取り付けてください。
取り付けには、付属の両面テープをお使いください。先にサブウーハーの接着する面に付属の両面テープを貼ってから、コーナーパッドを取り付けてください。

リモコンに乾電池を入れる

乾電池の入れかた

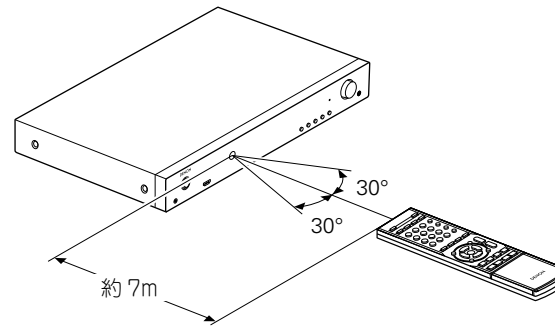
① つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。

② 乾電池（2 本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

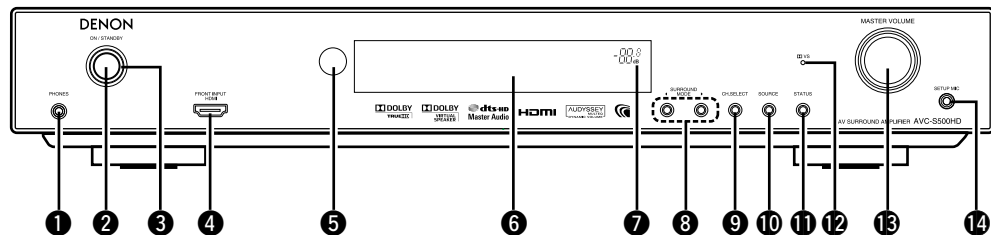
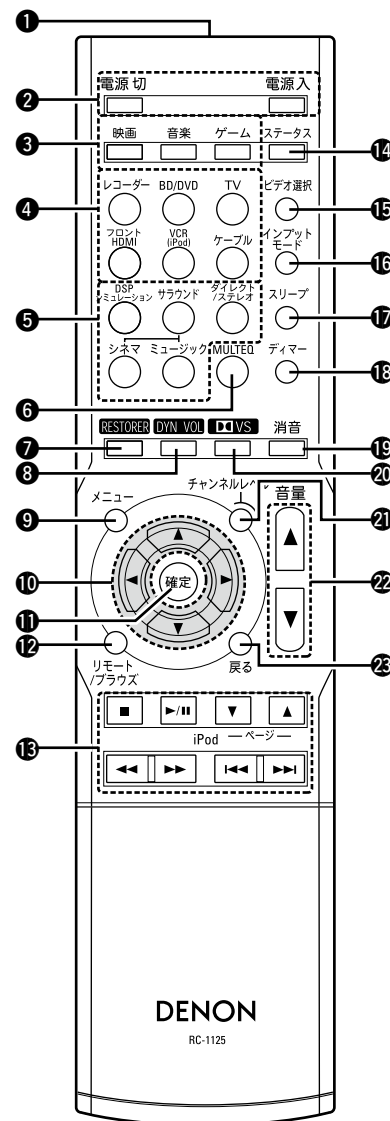
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

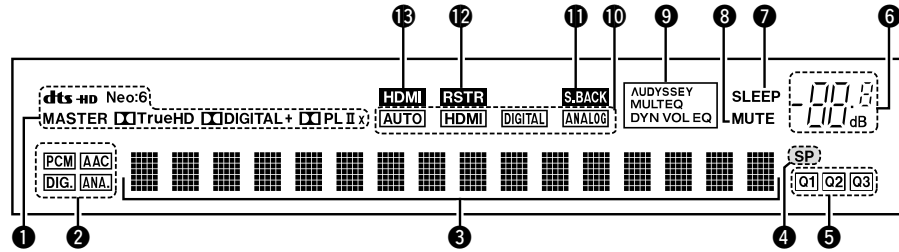
各部の名前

フロントパネル

詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

❶ ヘッドホン端子 (PHONES)…………(33)
❷ 電源ボタン (ON/STANDBY)…………(17)
❸ 電源表示
❹ フロント HDMI 入力端子
(FRONT INPUT HDMI)…………(15)
❺ リモコン受光部…………(7)
❻ ディスプレイ…………(9)
❼ 主音量およびメニュー番号表示…………(19)
❽ サラウンドモード切り替えボタン
(SURROUND MODE)…………(33)
❾ チャンネルセレクトボタン
(CH.SELECT)…………(41)
❿ 入力ソース切り替えボタン
(SOURCE)…………(31)
⓫ 状態表示ボタン (STATUS)…………(39)
⓬ ドルビーバーチャルスピーカー表示…(33)
⓭ 主音量調節つまみ
(MASTER VOLUME)…………(31)
⓮ セットアップマイク端子
(SETUP MIC)…………(21)

リモコン

❶ リモコン信号送信部
❷ 電源ボタン…………(17)
❸ クイックセレクトボタン
（映画、音楽、ゲーム）…………(41)
❹ 入力ソース選択ボタン…………(31)
❺ サラウンドモード切り替えボタン……(33)
❻ MultEQ ボタン…………(37)
❼ RESTORER ボタン…………(38)
❽ Dynamic Volume ボタン…………(38)
❾ メニューボタン…………(18)
❿ カーソルボタン…………(18)
⓫ エンターボタン（確定）…………(18)
⓬ リモート／ブラウズボタン…………(32)
⓭ iPod ドッグ用操作ボタン…………(32)
⓮ 状態表示ボタン（ステータス）…………(39)
⓯ ビデオセレクトボタン
（ビデオ選択）…………(40)
⓰ 入力モード切り替えボタン
（インプットモード）…………(30)
⓱ スリープタイマーボタン
（スリープ）…………(40)
⓲ ディマーボタン…………(33)
⓳ ミューティングボタン（消音）…………(33)
⓴ ドルビーバーチャルスピーカーボタン
（ VS）…………(33)
㉑ チャンネルレベル調節ボタン…………(41)
㉒ 主音量調節ボタン（音量）…………(31)
㉓ リターンボタン（戻る）…………(18)

詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

ディスプレイ

❶ **デコーダー表示**
動作中のデコーダーを点灯します。

❷ **入力音声信号表示**

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモードおよび設定値などの情報を表示します。

❹ **フロントスピーカー表示**
スピーカーから音声を出力しているときに点灯します。

❺ **クイックセレクト表示**
クイックセレクト機能が設定されているときに点灯します（☞41 ページ）。
Q1：映画、Q2：音楽、Q3：ゲーム

❻ **主音量表示**
設定操作中は、メニュー番号を表示します。

❼ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーの動作中に点灯します（☞40 ページ）。

❽ **ミュート表示**
ミューティング中に点灯します（☞33 ページ）。

❾ **AUDYSSEY 表示**
各モード時に次のように表示します（☞37 ページ）。

表示	
AUDYSSEY MULTEQ	"MultEQ" の動作中
AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ	"MultEQ"、"Dynamic EQ"、の動作中
AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL	"MultEQ"、"Dynamic EQ"、"Dynamic Volume"の動作中

※ オートセットアップ後に、スピーカー設定を変えると表示の枠が消灯するか、すべての表示が消灯します。

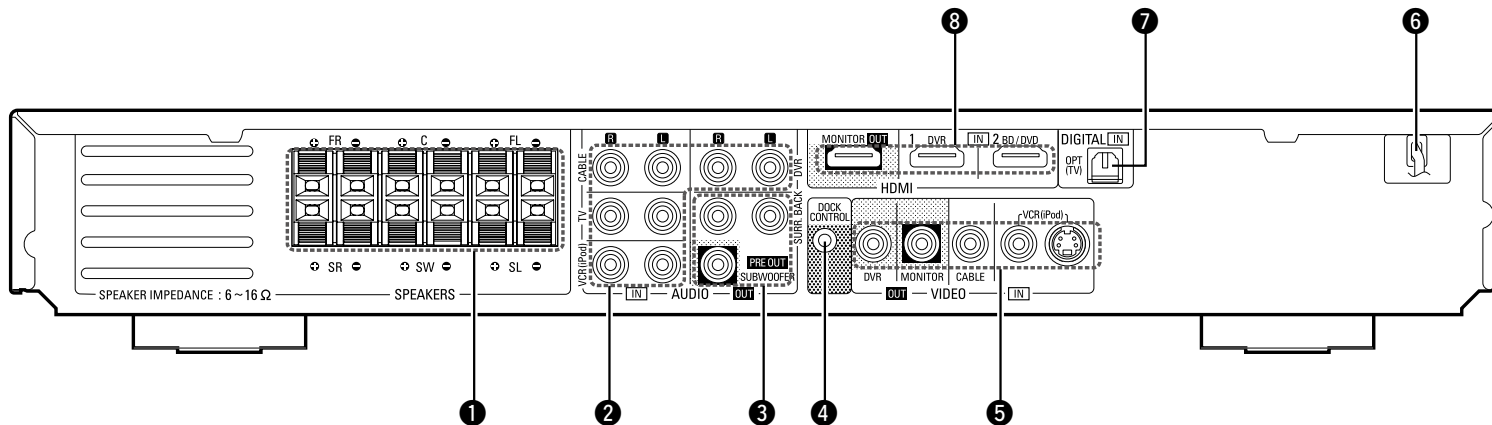
❿ **入力モード表示**

⓫ **サラウンドバック表示**
SURR.BACK 音声出力端子からサラウンドバック音声を出力しているときに点灯します（☞26 ページ）。

⓬ **RESTORER 表示**
RESTORER の動作中に点灯します（☞38 ページ）。

⓭ **HDMI 表示**
HDMI 入力信号を検出しているときに点灯します（☞14 ページ）。

リアパネル

詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

❶ スピーカー端子（SPEAKERS）…………（12）
❷ アナログ音声端子（AUDIO）……………（16）
❸ プリアウト端子（PRE OUT）……（13,17）
❹ iPod ドック用コントロール端子 ……（16）
❺ 映像端子（VIDEO）…………………………（15）
❻ 電源コード ……………………………………（17）
❼ デジタル音声端子（DIGITAL）…………（15）
❽ HDMI 端子（HDMI）…………………………（15）

接続のしかた

❑ 接続のながれ

スピーカーを接続する（☞12 ページ）

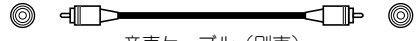
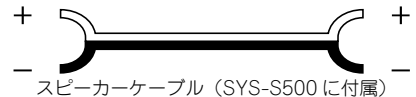
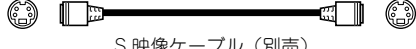
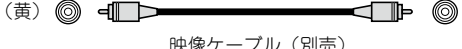
機器を接続する

❑ **HDMI 端子付きの機器を接続する**（☞14 ページ）
- 知っておいてほしいこと（☞14 ページ）
- 接続のしかた（☞15 ページ）
- HDMI 接続に関する設定（☞15 ページ）
- 入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）（☞11 ページ）
- 映像入力信号による画面表示のしかた（☞11 ページ）

❑ **HDMI 端子のない機器を接続する**（☞15 ページ）
- モニター（テレビ）を接続する（☞15 ページ）
- 再生機器を接続する（☞16 ページ）
- レコーダーを接続する（☞16 ページ）
- ケーブルテレビを接続する（☞17 ページ）
- アンプ内蔵サブウーハーを接続する（☞17 ページ）

❑ **電源コードを接続する**（☞17 ページ）

電源を入れる（☞17 ページ）

知っておいてほしいこと

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。

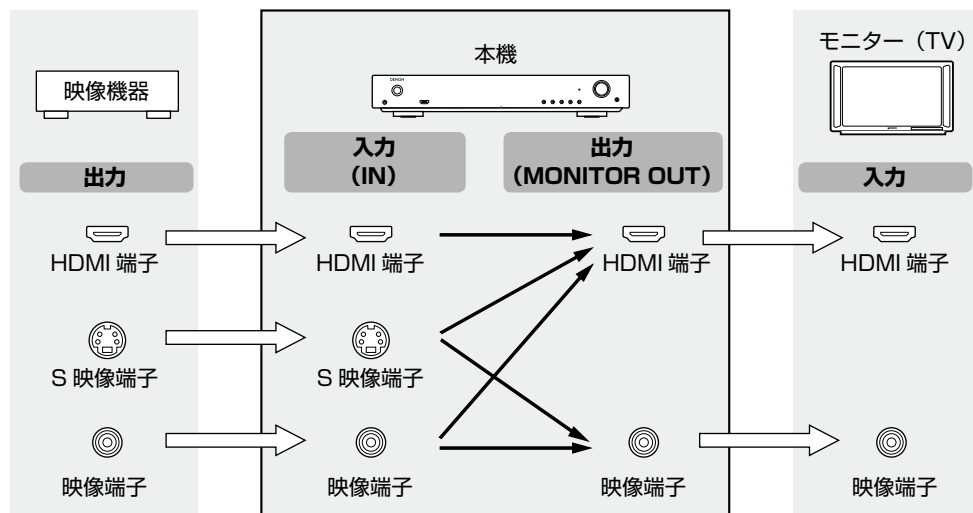
接続後に、本機の設定が必要なものがあります。各項目の“必要に応じて設定してください”の設定をおこなってください。

ご注意
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 接続するチャンネルを確かめてから、入力と出力のチャンネルを正しく接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードや接続ケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

接続に使用するケーブルについて

ご使用になる機器に合わせて、ケーブル（別売り）をご用意ください。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には 3 種類（HDMI、S 映像、映像）の映像入力端子と 2 種類（HDMI、映像）の映像出力端子があります。接続する機器に合わせてご使用ください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からモニターに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- HDMI 対応テレビの解像度は、“HDMI Monitor Information”（☞39 ページ）で確認することができます。

ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。

映像入力信号による画面表示のしかた

メニューや状態の画面表示のしかたは、本機に入力される映像信号の種類によって異なります。

HDMI 端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：黒背景の画面に切り替わり、メニューを重ねて表示します。（※）
- **状態表示**：表示しません。

※：再生中の映像にメニューを重ねて表示したいときは、映像端子にも同じ映像を入力してください。メニューを表示すると映像端子から入力している映像に切り替わってメニューを重ねて表示します。

S 映像端子または映像端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：再生中の映像にメニューを重ねて表示します。
- **状態表示**：表示します。

❑ 画面表示の例

- メニュー画面

```
MENU

1.Parameter
2.Information
3.Auto Setup
4.Manual Setup
5.Input Setup

[ENT]:Select
```

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時

音量調節時

状態表示：入力ソースの切り替えや音量の調節時に一時的に画面に操作状態を表示します。

スピーカーを接続する

本機は 2.1 チャンネルから 7.1 チャンネルまでのサラウンド再生に対応しています。お好みにあわせてお楽しみください。

サラウンドバックスピーカーの再生（6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネル再生）をおこなうときは、本機およびスピーカーシステムパック SYS-S500CS（別売）のほかに、パワーアンプとスピーカーを用意してください。（☞13 ページ「スピーカーを接続する」）

ご注意

スピーカーの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。

- スピーカーをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置すると、ハウリングを起こすことがあります。
- スピーカーの背面や前面に壁やガラス戸などがある場合は、厚手のカーテンなどを掛けると共振や反射を防止できます。
- スピーカーをテレビに近付けるとテレビ画面に色むらを生じる場合があります。そのときはテレビの電源を切り、離して置き、15 ～ 30 分後に再びテレビの電源を入れてください。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離して使用してください。
- サブウーハーは転倒による事故を防止するため、水平な床の上に設置してください。
- サブウーハーの上にレコードプレーヤー、CD プレーヤーなどの機器を設置しないでください。

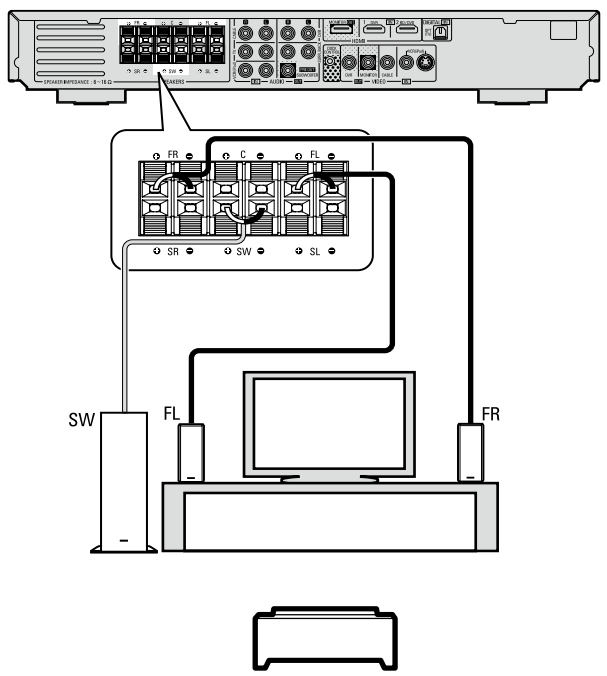
2.1 チャンネル接続のしかた

DHT-500HD の基本システムです。

必要な機器

DHT-S500HD / DHT-E6000HD

AV アンプ　フロント左 / 右スピーカー　サブウーハー

接続

5.1 チャンネル接続のしかた

スピーカーシステムにスピーカーシステムパック SYS-S500CS（別売）を加えたシステムです。

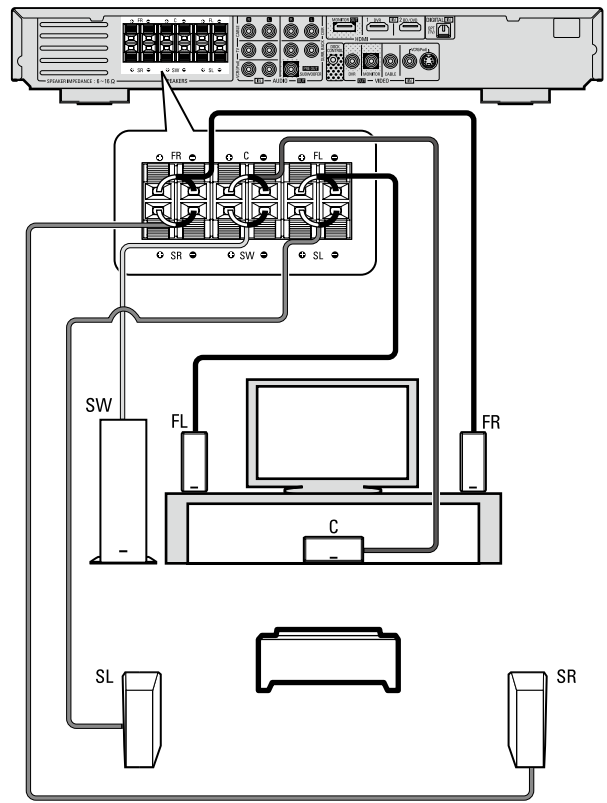
必要な機器

DHT-S500HD / DHT-E6000HD

AV アンプ　フロント左 / 右スピーカー　サブウーハー

SYS-S500CS（別売）

センタースピーカー　サラウンド左 / 右スピーカー

接続

7.1 チャンネル接続のしかた

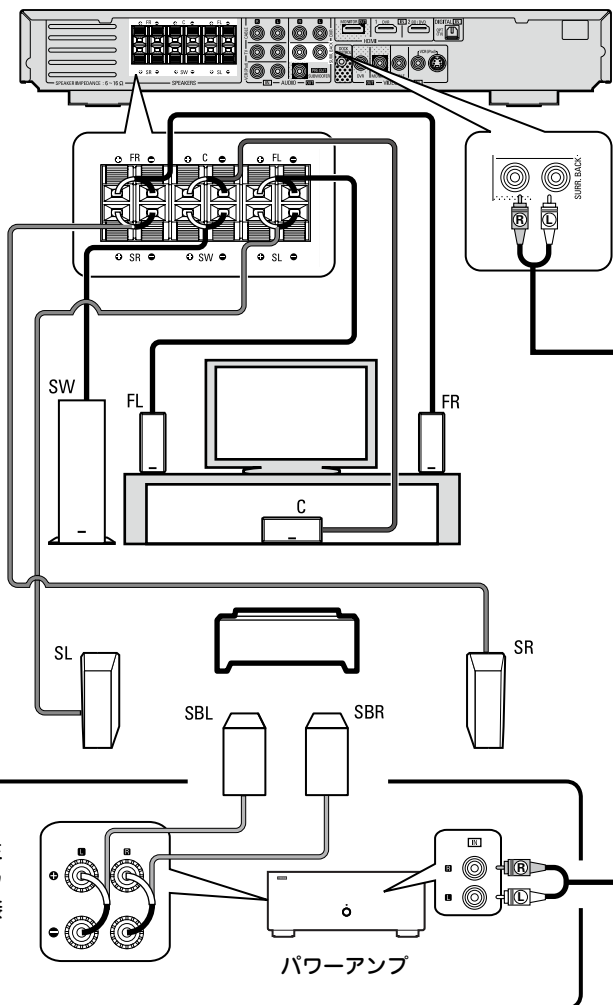
5.1 チャンネルのシステムにサラウンドバックスピーカーを加えたフルシステムです。

必要な機器

DHT-S500HD / DHT-E6000HD
- AV アンプ
- フロント左 / 右スピーカー
- サブウーハー

SYS-S500CS（別売）
- センタースピーカー
- サラウンド左 / 右スピーカー

必要な機器（別売）
- パワーアンプ
- サラウンドバック左 / 右スピーカー

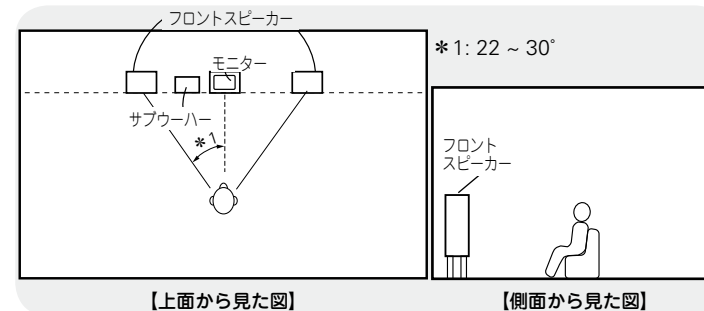
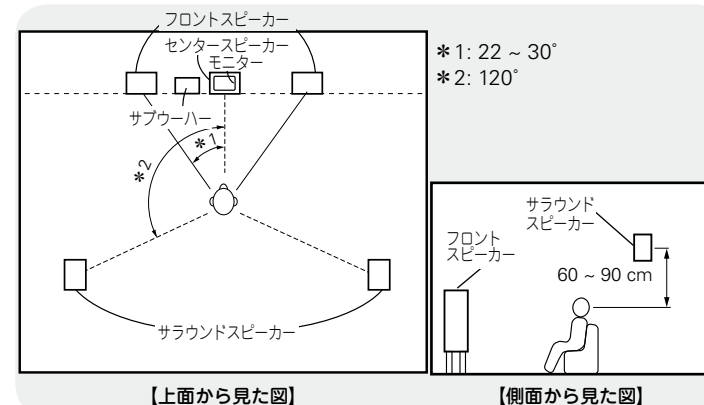
接続

サラウンドバックスピーカーの再生をおこなうときは、本機のプリアウト端子にパワーアンプ（別売）を接続してお使いください。

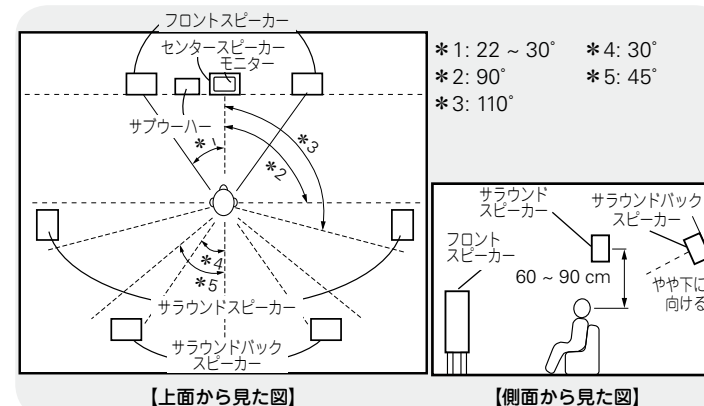
スピーカーのレイアウトについて

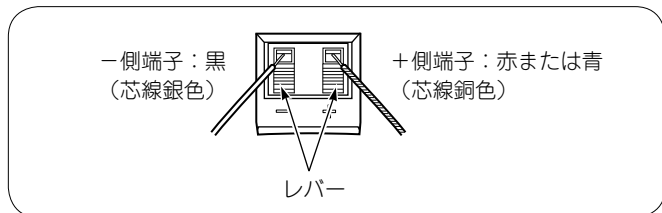
❑ 2.1 チャンネル接続時

【上面から見た図】　【側面から見た図】

❑ 5.1 チャンネル接続時

【上面から見た図】　【側面から見た図】

❑ 7.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続時

【上面から見た図】　【側面から見た図】

スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじる。

2 レバーを押し下げて、ケーブルの先端を穴に差し込む。

3 レバーを離す。

インピーダンスが6～16 Ωのスピーカーをご使用ください。

ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作して電源表示が約0.5秒間隔で赤色に点滅します。
保護回路が動作するとスピーカー出力は遮断され、電源はスタンバイ状態になります。この場合は、電源を切るか電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。
また、指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4 Ω）を使用して大音量で再生すると、本機の温度が上昇して保護回路が動作する場合があります。電源はスタンバイ状態になり、電源表示が約2秒間隔で赤色に点滅します。この場合は、電源を切って、周囲の通風状態を良くして、本機が冷えるのをお待ちください。
周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で当社の修理相談窓口にご連絡ください。

機器を接続する

HDMI 端子付きの機器を接続する

知っておいてほしいこと

❑ HDMI について

HDMI とは、“High Definition Multimedia Interface”の略で、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

“HDMI”、“HDMI ロゴ”および“High-Definition Multimedia Interface”は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

❑ HDMI 接続でできること

Deep Color
微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。“x.v.Color”はソニーの商標登録です。

Auto Lip Sync（☞27 ページ）
HDMI 1.3 対応機器には、自動的に映像と音声の同期をおこなう機能を内蔵しており、正確な同期処理をおこなうことができます。

HDMI コントロール機能（☞27、40 ページ）
外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作したりします。

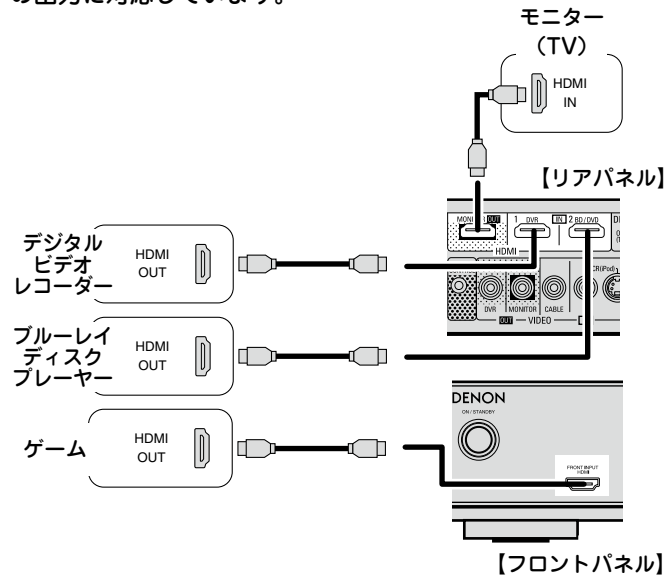
ご注意 HDMI 接続している機器が Deep Color や x.v.Color の伝送、および Auto Lipsync 機能に対応していないときは、それらの機能ははたらきません。

❑ 著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。

ご注意 HDCP に対応していない機器と接続すると、映像が正しく出力されません。

接続のしかた

本機は 3 台までの HDMI 機器からの入力と、1 台のテレビへの出力に対応しています。

- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）をご使用ください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）をご使用になると、正しく再生できない場合があります。
- 本機と各機器を HDMI ケーブルで接続したときは、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 伝送に対応している機器を接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをご使用ください。
- ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの解像度は、テレビが対応している解像度に合わせてください。ブルーレイディスク /DVD プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。

ご注意

- “HDMI Audio Out”（☞27 ページ）の設定が“Amp”のときにテレビの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

❑ DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❑ HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは各参照ページをご覧ください。

HDMI の設定（☞27 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- オートリップシンク
- オーディオアウト
- HDMI コントロール
- スタンバイソース
- パワーオフコントロール

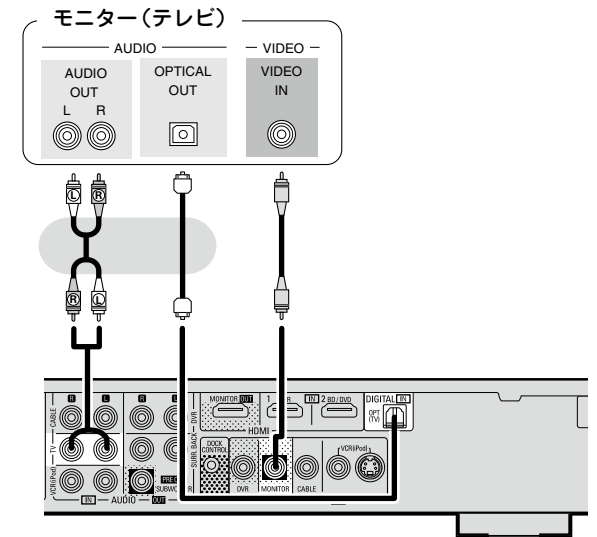
ご注意

デジタル音声入力端子などから入力された音声信号を、HDMI 接続したテレビから出力することはできません。

HDMI 端子のない機器を接続する

モニター（テレビ）を接続する

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- 映像の接続については、「入力された映像信号を変換して HDMI 出力端子から出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞11 ページ）をご覧ください。

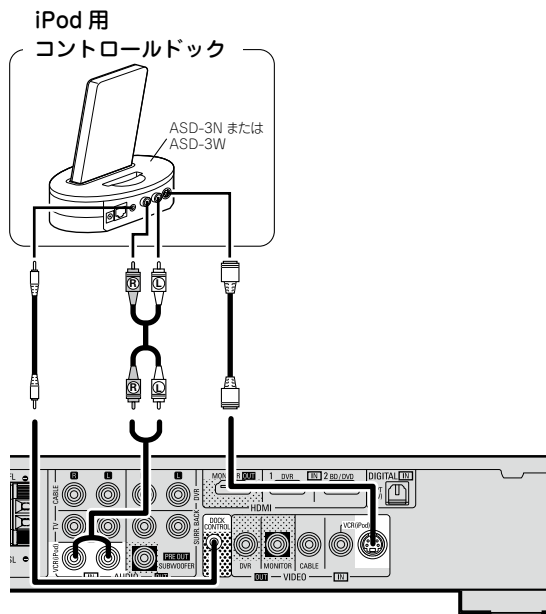
HDMI 接続については 14 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

ご注意

- 本機に付属の光伝送ケーブルを接続するときは、先端の保護キャップをはずしてください。
- 光伝送ケーブルは、本機のデジタル音声端子の形状に合わせて奥までしっかりと差し込んでください。

HDMI 端子のない機器を接続する

再生機器を接続する

iPod® 用コントロールドック

本機とiPodの接続には、DENON製iPod用コントロールドック（ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）をご使用ください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

必要に応じて設定してください

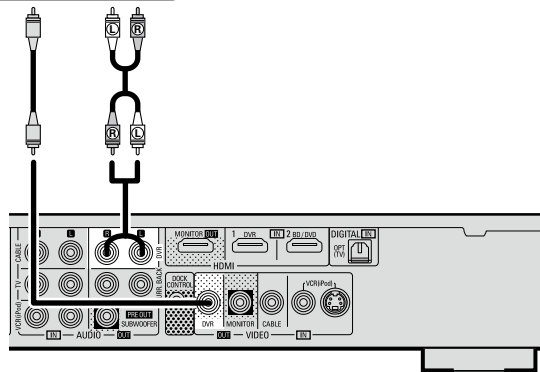
映像ケーブル（黄）をお使いのときは、“Input Setup” ⇨ “Video In”（☞29 ページ）を “COMPOSIT” に設定してください。

- お買い上げ時の設定では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- iPod 用の入力端子と VCR 用の入力端子は兼用です。両方を同時に接続することはできません。

レコーダーを接続する

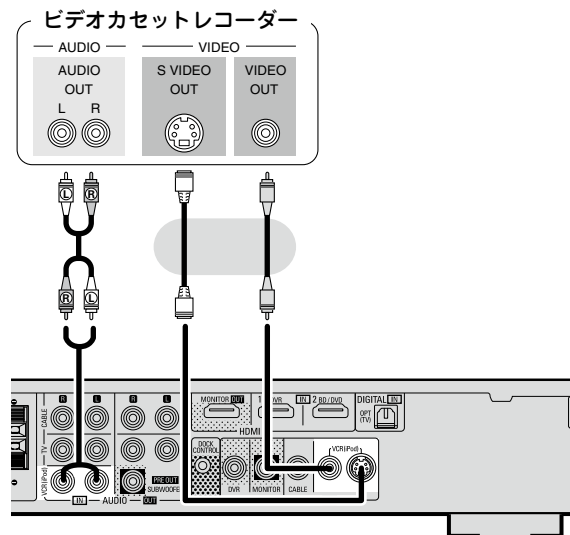
デジタルビデオレコーダー

デジタルビデオレコーダーからの入力には HDMI 端子をお使いください（☞14 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

デジタルビデオ
レコーダー
VIDEO AUDIO
VIDEO IN
AUDIO IN
L R

ご注意

- 本機に入力している信号を本機に接続しているレコーダーに出力して録画をするときは、入力と出力に同じ種類のケーブルをお使いください。
- デジタル入力信号は、アナログの REC OUT 端子から出力されません。

ビデオカセットレコーダー（アナログ）

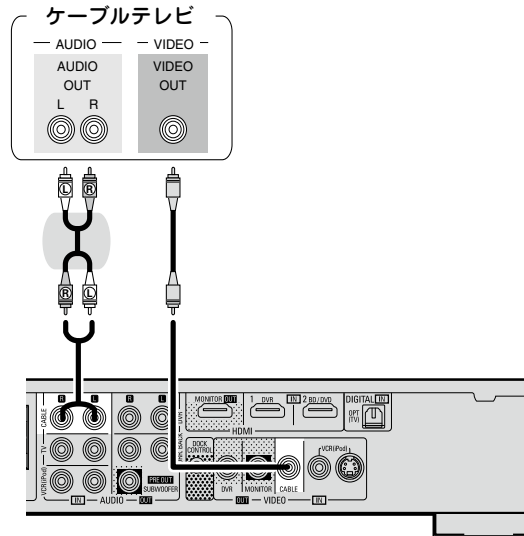
ご使用になる端子を選んで接続してください。

必要に応じて設定してください

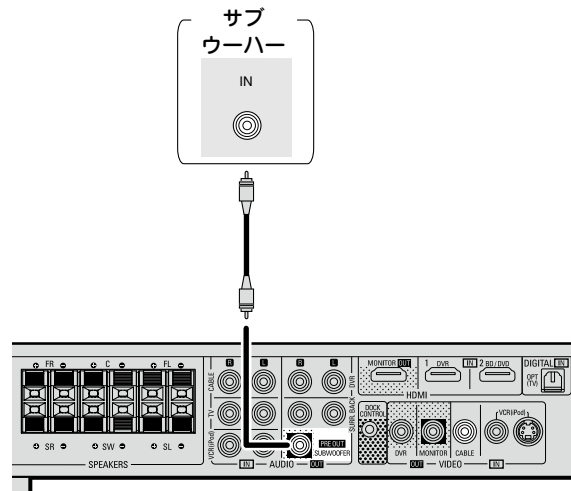
映像ケーブル（黄）をお使いのときは、“Input Setup” ⇨ “Video In”（☞29 ページ）を “COMPOSIT” に設定してください。

iPod 用の入力端子と VCR 用の入力端子は兼用です。両方を同時に接続することはできません。

ケーブルテレビを接続する

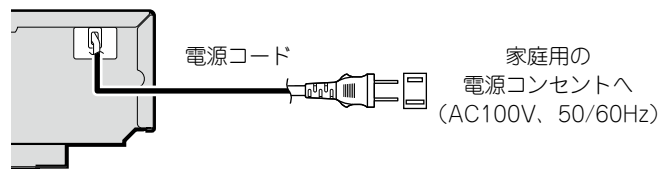
ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については 14 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

アンプ内蔵サブウーハーを接続する

本機に付属のサブウーハーの代わりに、お手持ちのアンプ内蔵サブウーハーをお使いになることができます。

ご注意

本機に付属のサブウーハーとお手持ちのアンプ内蔵サブウーハーのどちらか一つをお使いください。一緒にお使いになるとオートセットアップのときにサブウーハーの測定と解析が正しくおこなわれない場合があります。

電源コードを接続する

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

ご注意

電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。

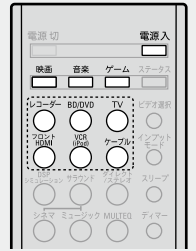
接続が終わったら

電源を入れる

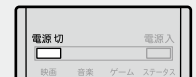
1 **電源入 を押す。**

※ スタンバイ状態のときに、映画 音楽 ゲーム を押しても、電源が入ります。

入力ソース選択ボタンを押した場合は、そのボタンの入力ソースになります。

また、映画 音楽 ゲーム を押した場合は、クイックセレクト機能に記憶させた入力ソースになります（☞41 ページ「よく使うモードの設定を記憶させる（クイックセレクト機能）」）。

電源を切る

電源 切 を押す。

電源がスタンバイ状態になります。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

設定のしかた

本機では各種設定をテレビ画面に表示されるメニューでおこないます。あらかじめ本機の映像出力端子（MONITOR OUT）をテレビに接続してください。

メニュー一覧

❏ 操作手順

1 メニュー を押す。
設定メニュー画面を表示します。

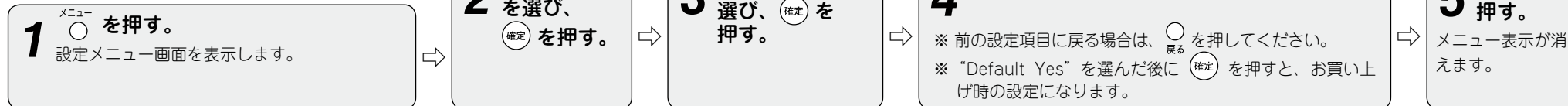
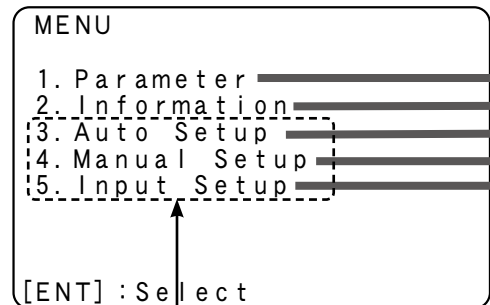
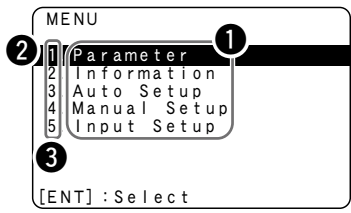
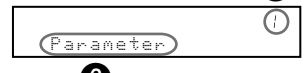
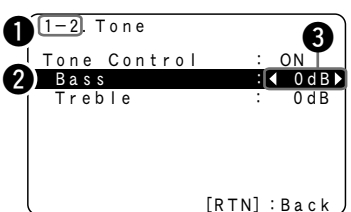
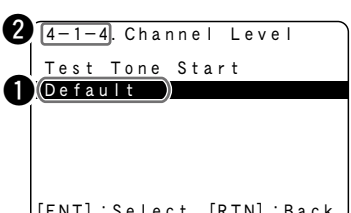
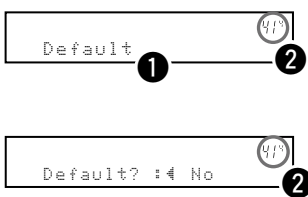
2 △▽ で項目を選び、確定 を押す。

3 △▽ で項目を選び、確定 を押す。

4 △▽ で項目を選び、確定 で設定を確定する。
※ 前の設定項目に戻る場合は、戻る を押してください。
※ "Default Yes"を選んだ後に 確定 を押すと、お買い上げ時の設定になります。

5 メニュー を押す。
メニュー表示が消えます。

❏ 設定メニュー

```
MENU

 1.Parameter
 2.Information
 3.Auto Setup
 4.Manual Setup
 5.Input Setup

[ENT]:Select
```

一度だけ設定すればよい項目
お買い上げ時などに設定してください。
一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの配置を変更しない限り設定の必要がありません。

設定項目	番号	詳細項目	内 容	参照ページ
1. Parameter 音声のパラメーターを調節します。	1-1	Surround Parameter	音場効果を調節します。	35
	1-2	Tone Control	トーンを調節します。	36
	1-3	Audyssey Settings	MultEQ、Dynamic EQおよびDynamic Volumeを設定します。	37
	1-4	RESTORER	圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域の量感を補正して豊かに再生します。	38
	1-5	Audio Delay	映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。	38
2. Information 本機の設定状態や入力信号の情報などを表示します。	2-1	Status	現在の設定状態を表示します。	39
	2-2	Audio Input Signal	音声入力信号の情報を表示します。	39
	2-3	HDMI Information	HDMIの入出力信号やテレビの情報を表示します。	39
	2-4	Auto Surround Mode	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	39
	2-5	Quick Select	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	39
3. Auto Setup スピーカーの最適な設定をおこない、部屋の音響特性を補正します。	3-1	Audyssey Auto Setup	ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。	21
	3-2	Parameter Check	オートセットアップの測定結果を確認します。 この項目は、オートセットアップ実行後に表示します。	24
4. Manual Setup 各種の詳細設定をします。	4-1	Speaker Setup	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	25
	4-2	HDMI Setup	HDMIの映像/音声出力に関する設定をします。	27
	4-3	Audio Setup	音声の再生に関する設定をします。	28
	4-4	Option Setup	その他の設定をします。	28
5. Input Setup 入力ソースの再生に関する設定をします。	5-1	Video In	VCRの入力に使う映像端子を変更します。	29
	5-2	Input Mode	音声の入力モードとデコードモードを設定します。	30
	5-3	Source Level	音声入力の再生レベルを補正します。	30
	5-4	iPod Playback Mode	iPodの再生に関する設定をします。	30

❏ メニューに表示される操作ボタンガイドについて

- **[ENT]** は 確定 ボタンをあらわします。
- **[RTN]** は 戻る ボタンをあらわします。

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について代表的な例を説明します。

テレビ画面		ディスプレイ	説　明
❑ トップメニューの表示	MENU ❷ ❶ 1 Parameter 2 Information 3 Auto Setup 4 Manual Setup 5 Input Setup ❸ [ENT]:Select	❸ Parameter 1 ❷	❶ : メニュー項目を表示します。 ❷ : 選択中の行を示します。 ディスプレイには選択中の項目を表示します。 設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。 ❸ : 選択中の設定メニューの番号を表示します。
❑ 設定を変更するときの表示	❶ 1–2. Tone ❸ Tone Control : ON ❷ Bass : ◀ 0dB ▶ Treble : 0dB [RTN]:Back	❶ DVD [HDMI1] 2 ❷	❶ : 現在選択中の設定メニューを表示します。 ❷ : 設定したい項目に移動するときは、△▽◁ ▷ を押します。 ❸ : 設定を変更できる項目には、項目名の両端に“◀ ▶”を表示します。◁ ▷ でお好みの設定に変更できます。 ❹ : (確定) を押して確定します。
❑ 初期化するときの表示	❷ 4–1–4. Channel Level Test Tone Start ❶ Default [ENT]:Select [RTN]:Back	Default 414 ❶ ❷ Default? :◀ No 414 ❷	❶ : 選択中の設定メニューの番号を表示します。 ❷ : ▽ を押して“Default”を選び、(確定) を押して確定します。

ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう（オートセットアップ）

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。

❏ オートセットアップのながれ

ステップ 1：付属のセットアップマイクを接続する（☞21 ページ）

ステップ 2：オートセットアップの準備（☞21 ページ）

必要なときのみおこなってください。

❏ 測定するスピーカー構成を設定する（SP Assign）

ステップ 3：オートセットアップをおこなう（☞22 ページ）

❏ スピーカーの構成を検出する

リスニングルームの騒音、スピーカー接続の有無およびスピーカーの極性を自動的に検出します。

❏ スピーカーの測定をする

ここでは、以下の測定をおこないます。

① スピーカーの大きさ
② リスニングポジションからスピーカーまでの距離
③ スピーカーから出力される音量
④ スピーカーのクロスオーバー周波数

❏ スピーカーの測定結果を確認する

ここでは、以下の測定結果を確認することができます。

① スピーカー接続の有無や大きさ
② リスニングポジションからスピーカーまでの距離
③ スピーカーから出力される音量
④ スピーカーのクロスオーバー周波数

❏ スピーカーの測定結果を保存する

オートセットアップ後に測定結果やイコライザーの種類を確認する（☞24 ページ）

ここでは、以下の測定結果を確認することができます。

① スピーカーの大きさ
② リスニングポジションからスピーカーまでの距離
③ スピーカーから出力される音量
④ スピーカーのクロスオーバー周波数
⑤ イコライザーの種類

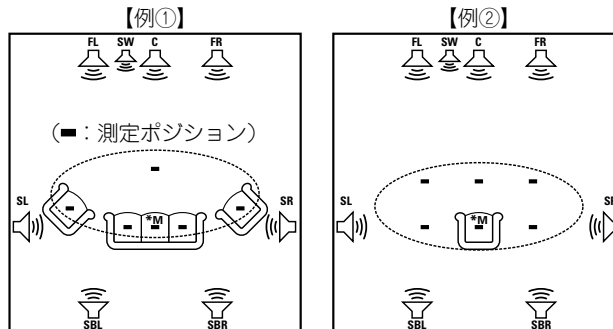
知っておいてほしいこと

本機のオートセットアップ機能である Audyssey MultEQ® は、リスニングルームの音響特性の測定、解析および設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。

- オートセットアップをおこなうと MultEQ/DynamicEQ/Dynamic Volume の機能(☞37 ページ)が有効になります。
- オートセットアップは、付属のセットアップマイク（DM-A409）を使用しておこないます。
- 測定は、【例①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように 6 ポジションで測定することをおすすめします。
リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

❏ サラウンドバックスピーカーをご使用になるとき

【例①】

【例②】

FL　：フロント左スピーカー
SW　：サブウーハー
C　：センタースピーカー
FR　：フロント右スピーカー
SR　：サラウンド右スピーカー
SBR：サラウンドバック右スピーカー
SBL：サラウンドバック左スピーカー
SL　：サラウンド左スピーカー

メインリスニングポジション（* M）について

メインリスニングポジションとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置をいいます。Audyssey MultEQ は、この位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

ご注意

- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯などの電化製品をオフにしてください。測定はこれらの騒音の影響を受けることがあります。
測定中、携帯電話はリスニングルームとは別の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨害する原因になることがあります。

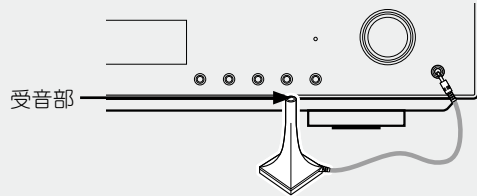
ステップ 1：付属のセットアップマイクを接続する

- セットアップマイクは、オートセットアップが完了するまで絶対に抜かないでください。
- ヘッドホンをご使用の場合は、オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

1 スピーカーの接続を確認する。
（☞12 ページ「スピーカーを接続する」）

2 テレビやサブウーハーの電源を入れる。
テレビの入力を本機の入力に設定します。

3 本機の電源を入れる。
（☞17 ページ「電源を入れる」）

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。
テレビ画面にオートセットアップ画面を表示します。

5 セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポジションに設置する。
（☞20 ページ「メインリスニングポジション（※M）について」）
セットアップマイクの受音部をリスニング時の耳の高さにあわせてください。

ご注意
- セットアップマイクを手で持ちながらオートセットアップをおこなわないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

付属サブウーハー（DSW-S500）以外のサブウーハー（別売）をご使用の場合

オートセットアップをはじめる前に、以下の設定をおこなってください。

❑ ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合
ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

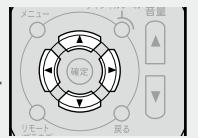
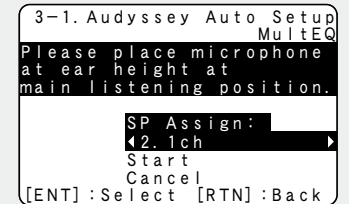
❑ ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合
次のように設定してください。
- 音量の設定　：“12 時”の位置
- クロスオーバー周波数の設定 ：“最大 / 最高周波数”
- ローパスフィルターの設定　：“オフ”
- スタンバイモードの設定　：“オフ”

ステップ 2：オートセットアップの準備

必要に応じて、以下の項目を設定してからおこなってください。

測定するスピーカー構成を設定する (SP Assign)

AV アンプ（AVC-S500HD）に接続しているスピーカーの構成を選びます。
- オートセットアップは各チャンネルのスピーカー接続の有無にかかわらず、すべてのスピーカー出力の測定をおこないます。オートセットアップの前にスピーカー構成を選ぶと、使用しないスピーカーの設定動作をおこないません。その分オートセットアップ時間の短縮になります。
- 2.1ch / 5.1ch / 7.1ch 以外のスピーカー接続のときは、接続するスピーカー本数よりも多い本数のモードを選んでください。
- 選ぶモードが分からないときは、“7.1ch”を選んでください。

1 △▽ を押して “SP Assign” を選ぶ。

2 ◁ ▷ を押してスピーカーアサインモードを選ぶ。

2.1ch ：お買い上げ時の設定です。
使用するスピーカー：

フロント左/右スピーカー **サブウーハー**

- 2.1 チャンネルホームシアターシステム DHT-S500HD / DHT-E6000HD のみをお使いのときに設定してください。

5.1ch ：使用するスピーカー：

フロント左/右スピーカー **センタースピーカー** **サブウーハー** **サラウンド左 / 右スピーカー**

7.1ch ：使用するスピーカー：

フロント左/右スピーカー **センタースピーカー** **サブウーハー** **サラウンド左 / 右スピーカー** **サラウンドバック左 / 右スピーカー**

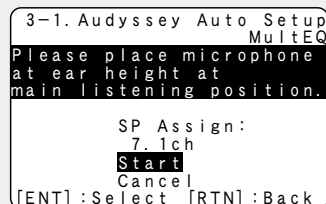
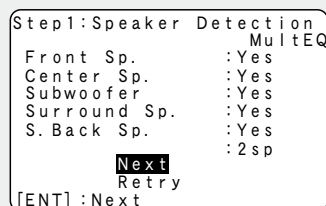
- サラウンドバックスピーカーの再生にはパワーアンプ（別売）とスピーカー（別売）が必要です。詳しくは 13 ページの「7.1 チャンネル接続のしかた」をご覧ください。

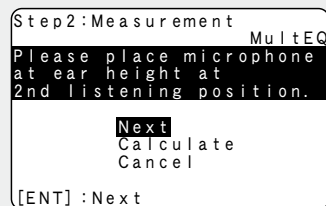
❑ 設定を中止するとき

△▽ を押して“Cancel”を選び、◁ ▷ を押して“Yes”を選ぶ。

ステップ 3：オートセットアップをおこなう

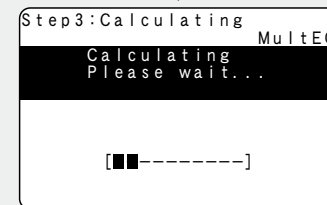
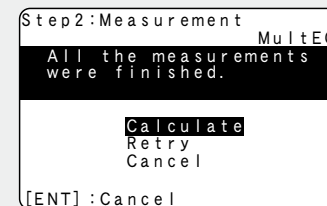
- オートセットアップでは、スピーカーの接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離、クロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。
- 測定をはじめると、各スピーカーからテストトーンを出力します。
- オートセットアップをはじめる前に、すべてのスピーカーを設置し接続してください。

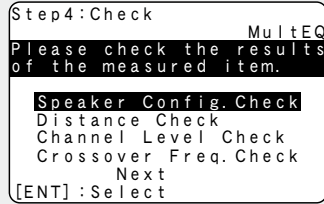
1 **△▽ を押して“Start”を選び、(確定) を押す。**
スピーカー構成の検出をはじめます。

2 **すべてのスピーカーの検出が終わり、右の画面が表示されたら、スピーカー接続の有無の結果を確認する。**

3 **結果を確認したら、△▽ を押して“Next”を選び、(確定) を押す。**
※ スピーカーの検出結果が接続しているスピーカーと異なる場合は、スピーカーの接続を確認してください。

4 **右の画面が表示されたらセットアップマイクを 2 箇所目のリスニングポジションに移動し、△▽ を押して“Next”を選び、(確定) を押す。**
2 箇所目のリスニングポジションの測定をはじめます。

5 **手順 4 をくり返して、3 〜 6 箇所目のリスニングポジションを測定する。**
6 箇所目の測定が完了すると、“All the measurements were finished.(すべての設定が完了しました)”を表示します。

※ リスニングポジションは最大 6 箇所まで測定が可能です。1 箇所でもオートセットアップは測定可能ですが、より良い結果を得るためには、複数箇所の測定をおすすめします。

6 **測定が終了したら、△▽ を押して“Calculate”を選び、(確定) を押す。**
スピーカーの解析をおこないます。

※ 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定箇所数に依存します。接続するスピーカーの数と測定ポジションが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

7 △▽ を押して確認したい項目を選び、確定 を押す。

測定結果の確認画面を表示します。

Speaker Config. Check	：スピーカー構成の確認
Distance Check	：距離の確認
Channel Level Check	：各スピーカーの音量の確認
Crossover Freq. Check	：各スピーカーのクロスオーバー周波数の確認

※ サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

8 戻る を押す。

測定結果の確認画面に戻りますので、手順 7 をくり返しおこなってください。

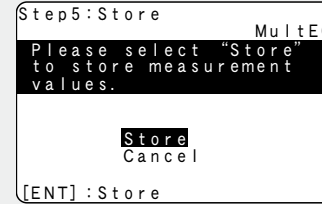
※ 確認しなくてもよいときは、手順 9 に進んでください。

9 △▽ を押して “Next” を選び、確定 を押す。

10 △▽ を押して “Store” を選び、確定 を押す。

保存中は “Storing Please wait...” を表示します。

保存が終了すると、“Storing complete. Auto Setup is now finished.（保存が完了しました。オートセットアップを終了します）” を表示します。

※ 測定結果を保存しないときは、△▽ で “Cancel” を選び、◁ ▷ で “YES” を選んでください。すべての測定結果を消去します。

ご注意 **測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。**

11 画面の中央に "Exit" が表示されたら 確定 を押す。

※ これでオートセットアップは完了です。本機からセットアップマイクを抜いてください。

ご注意

オートセットアップをおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再びオートセットアップをおこなってください。

- 接続している状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞24 ページ）をご覧になり、△▽ で “Retry（再実行）” を選んだ後に 確定 を押して、再びオートセットアップをおこなってください。
- 再測定後の結果も、接続している状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザー補正を得るために、再びオートセットアップをおこなってください。

ご使用になる前に
接続
設定
再生
便利な機能
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再びオートセットアップをおこなってください。

ご注意 スピーカーの接続を確認する際には、必ず電源を切ってからおこなってください。

エラーメッセージ（例）	エラー内容	処　理
Caution MultEQ ●Microphone:None or Speaker :None Retry Cancel [ENT]:Retry	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。 ●フロント左スピーカーが正しく検出されません。	●付属のセットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ ●Ambient noise is too high or Level is too low. Retry Cancel [ENT]:Retry	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度おこなってください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
Caution MultEQ Front R :None Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。 ・フロント右スピーカーが正しく検出されません。 ・サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されていません。 ・サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ接続している場合に、右チャンネルから検出されました。 ・サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、サラウンドスピーカーが検出されません。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ Front L :Phase Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続してもこのエラーメッセージが表示される場合があります。接続が正しいときには、△▽を押して“Skip”を選び、(確定) を押してください。

❏ 再びオートセットアップをおこなうとき

△▽ を押して“Retry（再実行）”を選び、(確定) を押す。

❏ 測定を中止するとき

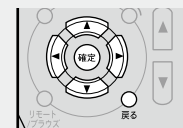
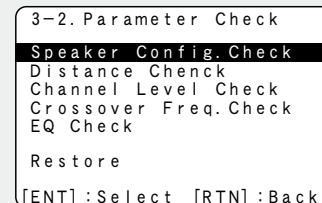
△▽ を押して“Cancel（中止）”を選び、◁ ▷ を押して“Yes”を選ぶ。

オートセットアップ後に測定結果やイコライザーの種類を確認する（Parameter Check）

このメニュー項目は、オートセットアップ後に表示します。

1 △▽ を押して“Parameter Check”を選び、(確定) を押す。

“Parameter Check”メニューを表示します。

```
3-2.Parameter Check

Speaker Config.Check
Distance Chenck
Channel Level Check
Crossover Freq.Check
EQ Check

Restore

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

2 △▽ を押して確認したい項目を選び、(確定) を押す。

Speaker Config. Check	：スピーカー構成の確認
Distance Check	：距離の確認
Channel Level Check	：各スピーカーの音量の確認
Crossover Freq. Check	：各スピーカーのクロスオーバー周波数の確認
EQ Check	：イコライザーの確認

3 ◁ ▷ を押して各スピーカーの表示を切り替える。

4 (戻る) を押す。

確認画面に戻りますので、手順 2、3 をくり返しおこなってください。

オートセットアップ後に各設定を変更しても、“Restore（再保存）”を選び (確定) を押すと、オートセットアップの設定値に戻すことができます。

リモコンの操作ボタン

(確定)：設定を確定する　(戻る)：ひとつ前のメニューに戻る

詳細な設定をする（Manual Setup）

オートセットアップの設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更する場合に設定します。

- オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ/Dynamic EQ/Dynamic Volumeを選択できなくなります（☞37ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- “メニュー一覧”と“操作手順”は、18ページをご覧ください。

❑ Manual Setupで設定できること

❑ メニュー画面の表示例

Speaker Setup

```
4-1.Speaker Setup

1.Speaker Config.
2.Bass Setting
3.Distance
4.Channel Level
5.Crossover Freq.

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

HDMI Setup

```
4-2.HDMI Setup

Auto Lipsync   : ON
HDMI Audio Out : Amp
HDMI Control   : OFF

                [RTN]:Back
```

Audio Setup

```
4-3.Audio Setup

1.Auto Surround Mode
2.Bilingual Mode

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Option Setup

```
4-5.Option Setup

1.Volume Control
2.On-Screen Display
3.Setup Lock

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

スピーカーの設定をする（Speaker Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合やオートセットアップで設定された内容を変更するときにおこなってください。

設定項目	設定内容
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。	**Front：**フロントスピーカーの大きさを設定します。 •**Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**<u>Small</u>：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 “Subwoofer”の設定が“No”の場合は、“Front”の設定は自動的に“Large”に切り替わります。
	Center：センタースピーカーの有無 / 大きさを設定します。 •**Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**Small：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**<u>None</u>：**センタースピーカーを使用しません。 • “Front”の設定が“Small”の場合、“Large”は表示しません。 • “Center”を“Large”に設定しても、“Front”を“Small”に設定すると、“Center”の設定は自動的に“Small”に切り替わります。
ご注意 “Large”と“Small”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、低音域の再生能力で判断してください。	**Subwoofer：**サブウーハーの有無を設定します。 •**<u>Yes</u>：**サブウーハーを使用します。 •**No：**サブウーハーを使用しません。 “Front”の設定が“Small”の場合は、“Subwoofer”の設定は自動的に“Yes”に切り替わります。
	Surround：サラウンドスピーカーの有無 / 大きさを設定します。 •**Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**Small：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**<u>None</u>：**サラウンドスピーカーを使用しません。 “Front”の設定が“Small”の場合は、“Large”を表示しません。

詳細な設定をする（Manual Setup）

設定項目	設定内容
Speaker Config. （つづき） ご注意 “Large” と “Small” の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、低音域の再生能力で判断してください。	**S.Back（プリアウト）：** サラウンドバックスピーカーの有無 / 大きさ / 本数を設定します。 • **Large：** 低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small：** 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None：** サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2ch：** サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1ch：** サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときには、サラウンドバックスピーカーを左 (L) チャンネルに接続してください。 • “Surround” の設定が “Small” の場合は、“Large” を表示しません。 • “S.Back” を “Large” に設定しても、“Surround” を “Small” に設定すると、“S.Back” の設定は自動的に “Small” に切り替わります。 ご注意 サラウンドバックスピーカーを設定していても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。この場合は “Surround Back”（☞36 ページ）を “OFF” 以外に設定してください。
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。 “Speaker Config.” ⇨ “Subwoofer” の設定（☞25 ページ）が“Yes” のときに表示します。	**SW Mode：** サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE：** サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさが “Small” に設定されているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main：** サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main” に設定してください。
	LPF for LFE： LFE 信号の再生帯域を設定します。 • **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**

設定項目	設定内容
Distance リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Step：** 距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m**
	Front L（フロント左）/ **Front R**（フロント右）/ **Center**（センター）/ **Subwoofer**（サブウーハー）/ **Surround L**（サラウンド左）/ **Surround R**（サラウンド右 / **S.Back L**（サラウンドバック左）/ **S.Back R**（サラウンドバック右）**：** スピーカーを選びます。 ＊ “S.Back”（☞26 ページ）の設定が “1ch” のときは “S.Back” を表示します。 • **0.0m** ～ **18.0m：** 距離を設定します。 • “SP Assign”（☞21 ページ）および “Speaker Config.” の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント / センター / サブウーハー：3.6 メートル サラウンド / サラウンドバック：3.0 メートル ご注意 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0 メートル以下になるように設定してください。不適切な距離に設定すると、画面に “Relocate Speaker（設置をやり直してください）” を表示します。
	Default： 設定された内容を初期値に戻します。 • **Yes：** 設定を初期値に戻します。 • **No：** 設定を初期値に戻しません。

設定項目	設定内容
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start：**テストトーンを出力します。 **Front L**（フロント左）/ **Front R**（フロント右）/ **Center**（センター）/ **Subwoofer**（サブウーハー）/ **Surround L**（サラウンド左）/ **Surround R**（サラウンド右 / **S.Back L**（サラウンドバック左）/ **S.Back R**（サラウンドバック右）**：**スピーカーを選びます。 ＊ “S.Back”（☞26 ページ）の設定が “1ch” のときは “S.Back” を表示します。 ● **-12.0dB ～ +12.0dB**（**0.0dB**）**：**音量を調節します。 ● “Channel Level” を調節すると、調節された値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、「各スピーカーの音量を調節する」（☞41 ページ）をご覧ください。 ● “Speaker Config.” の設定（☞25 ページ）で、“None” または “No” に設定されているスピーカーは表示しません。 ● サブウーハーの音量が “-12dB” のときに ◁ を押すと、“Channel Level” の設定は “OFF” になります。 ● ミューティング中にテストトーンの出力を開始した場合は、ミューティングを解除します。
	Default：設定された内容を初期値に戻します。 **Yes：**設定を初期値に戻します。 **No：**設定を初期値に戻しません。
Crossover Frequency 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。 “Speaker Config.” ⇨ “Subwoofer” の設定（☞25 ページ）が “Yes” または “Small” のときに設定できます。	**Crossover：**各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。 ● **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz** ● **Advanced：**スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 **Front** / **Center** / **Surround** / **S.Back：**スピーカーを選びます。 ● **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz：**クロスオーバー周波数を設定します。 ● “Small” に設定されているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 ● “Bass Setting”（☞26 ページ）の設定により、“Advanced” のときに設定できるスピーカーが異なります。 ・“LFE” の場合は、“Speaker Config.” で “Small” に設定されているスピーカーの設定ができます。 ・“LFE+Main” の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

HDMI の設定をする（HDMI Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**ON：**補正します。 **OFF：**補正しません。
HDMI Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**Amp：**本機に接続されたスピーカーで再生します。 **TV：**本機に接続されたテレビのスピーカーで再生します。 ご注意 HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続されたテレビの音声設定を優先します。
HDMI Control 外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作したりします。 ご注意 HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビを接続してください。	**ON：**HDMI コントロール機能を使用します。 **OFF：**HDMI コントロール機能を使用しません。 ● 接続された機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 ● HDMI コントロール機能については、「本機で HDMI 対応機器をコントロールする（HDMI コントロール機能）」（☞40 ページ）をご覧ください。 ご注意 ● **本設定を “ON” に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。** ● 長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。 ● “HDMI Control” の設定を変更した場合には、必ず接続している機器の電源を入れ直してください。
Standby Source スタンバイ時に HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。 “HDMI Control” の設定が “ON” のときに設定できます。	**Last：**電源がオンのときに、最後に使用していた入力ソースのままスタンバイします。 **DVR** / **BD** / **FRONT（フロントパネルの HDMI 端子）：** それぞれの入力端子が割り当てられている入力ソースでスタンバイします。
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。 “HDMI Control” の設定が “ON” のときに設定できます。	**ON：**連動します。 **OFF：**連動しません。 ● 接続している機器の設定は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 ● HDMI コントロール機能については、「本機で HDMI 対応機器をコントロールする（HDMI コントロール機能）」（☞40 ページ）をご覧ください。

音声の設定をする（Audio Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Surround Mode 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**ON：**記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動的に再生します。 **OFF：**記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号 ② ドルビーデジタルや DTS などの 2 チャンネル信号 ③ ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネル信号 ④ ドルビーデジタルやDTS以外のマルチチャンネル信号（PCMなど）
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。 二重音声のソースの再生中に設定できます。	**Main：**主音声のみ出力します。 **Sub：**副音声のみ出力します。 **Main/Sub：**主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 **Main+Sub：**主音声と副音声をミックスして出力します。

その他の設定をする（Option Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Volume Control 音量に関する設定をします。	**Vol.Limit：**音量の上限を設定します。 •**OFF：**設定しません。 •**60** / **70** / **80**
	Power On Lev：電源を入れたときの音量を設定します。 •**Last：**記憶している音量になります。 •**- - -：**常に電源を入れたときは消音状態になります。 •**-1** ～ **99：**設定した音量になります。
	Mute Lev.：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 •**Full：**消音状態になります。 •**-40dB：**現在の音量から 40dB 下げて再生します。 •**-20dB：**現在の音量から 20dB 下げて再生します。
On-Screen Display テレビ画面の表示に関する設定をします。	**Screensaver：**スクリーンセーバーの表示を設定します。 •**ON：**メニューの表示中や iPod 画面の表示中に約 3 分間何も操作をしない状態が続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。 △▽◁▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、前の画面を表示します。 •**OFF：**使用しません。
	Text：サラウンドモードや入力モードなどの切り替え操作時にモード名を表示します。 •**ON：**表示します。 •**OFF：**表示しません。
	Master Volume：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 •**Bottom：**画面下に表示します。 •**Top：**画面上に表示します。 •**OFF：**表示しません。
	iPod Info.：入力ソースが“iPod”のときに iPod 画面の表示時間を設定します。 •**Always：**常に表示します。 •**30sec：**操作後に 30 秒間 iPod 画面を表示します。 •**10sec：**操作後に 10 秒間 iPod 画面を表示します。 •**OFF：**表示しません。
Setup Lock 設定した内容を変更できないように保護します。	**ON：**設定した内容を保護します。 **OFF：**設定した内容を保護しません。 “Setup Lock”を“ON”に設定すると、以下の設定の変更ができなくなります。また、以下の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“SETUP LOCKED”を表示します。 · MultEQ · RESTORER · Dynamic EQ · チャンネルレベル · Dynamic Volume · オーディオディレイ

リモコンの操作ボタン

メニュー：メニューを表示する / メニューを解除する

：カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）

確定：設定を確定する

戻る：ひとつ前のメニューに戻る

入力の設定をする（Input Setup）

現在設定している入力ソースに関する設定をします。
メニュー画面を表示させる前に、入力ソース選択ボタンで、設定をおこなう入力ソースに切り替えてください。

設定できる項目は選択している入力ソースによって異なります。
設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
"メニュー一覧"と"操作手順"は、18ページをご覧ください。

❑ Input Setupで設定できること

VCR/iPod の映像入力に使う端子を変更する（Video In）
☞29 ページ

入力ソースの入力モードとデコードモードを変更する（Input Mode）
☞30 ページ

入力ソースの再生レベルを補正する（Source Level）
☞30 ページ

iPod の再生モードを設定する（iPod Playback Mode）
☞30 ページ

知っておいてほしいこと

設定できる項目は選択している入力ソースによって異なります。
設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
設定できる内容と設定操作のしかたについては「メニュー一覧」（☞18ページ）をご覧ください。

❑ メニュー画面の表示例

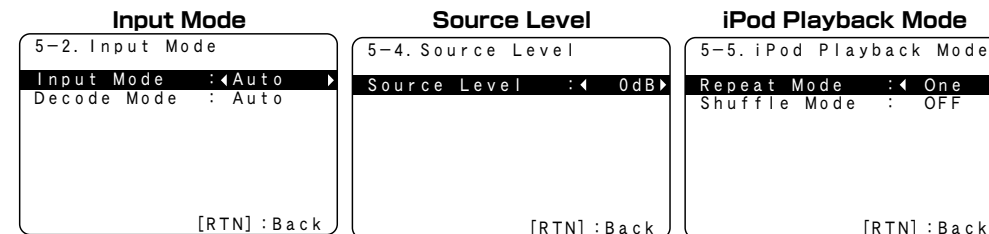
Input Mode

```
5-2. Input Mode

Input Mode   :◀Auto ▶
Decode Mode  : Auto

[RTN]:Back
```

Source Level

```
5-4. Source Level

Source Level  :◀  0dB▶

[RTN]:Back
```

iPod Playback Mode

```
5-5. iPod Playback Mode

Repeat Mode   :◀ One ▶
Shuffle Mode  :  OFF

[RTN]:Back
```

VCR/iPod の映像入力に使う端子を変更する（Video In）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

VCR/iPod の映像入力端子には、ビデオ入力端子と S ビデオ入力端子の 2 つがあります。あらかじめ使う側の入力端子を設定してください。

ご注意

ビデオ入力端子と S ビデオ入力端子の両方を同時に使うことはできません。

設定内容
COMPOSIT : ビデオ入力端子（黄色）を使います。 **S-VIDEO :** S ビデオ入力を使います。

入力ソースの入力モードとデコードモードを変更する（Input Mode）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
Input Mode テレビから本機にデジタル音声とアナログ音声を入力しているときに、再生する音声入力を選びます。 ※ "TV" 以外の入力ソースでは、音声入力の切り替えはできません。	**Auto：**本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **Digital：**デジタル入力端子からの入力信号を再生します。 **Analog：**アナログ入力端子からの入力信号を再生します。 ※ "TV" 以外の入力ソースでは、音声入力の切り替えはできません。 （下表参照）
Decode Mode 入力ソースのデコードモードを設定します。	**Auto：**デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM：**PCM 信号が入力されたときのみデコードして再生します。 **DTS：**DTS 信号が入力されたときのみデコードして再生します。 通常は“Auto”に設定してください。

入力ソース	DVR	BD/DVD	フロントHDMI	CABLE
お買い上げ時の設定	HDMI（固定）	HDMI（固定）	HDMI（固定）	Analog（固定）

入力ソース	TV	VCR/iPod
お買い上げ時の設定	Auto	Analog（固定）

- デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIG.”表示が点灯します。“DIG.”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。
- インプットモード を押しても設定できます。
押すたびに、入力モードの表示が切り替わります。

入力ソースの再生レベルを補正する（Source Level）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

現在選択している入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって入力音量レベルに差があるときなどに設定してください。

設定項目	設定内容
Source Level (Analog) アナログ音声入力の再生レベルを補正します。	-12dB ～ +12dB（0dB）

iPod の再生モードを設定する（iPod Playback Mode）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

iPod 用コントロールドック ASD-11R を接続しているときに表示します。ASD-3N/3W をお使いのときはこのメニューを表示しません。ASD-3N/3W のリモコンで設定してください。

設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。	**All：**すべての曲をリピート再生します。 **One：**再生中の曲をリピート再生します。 **OFF：**リピート再生モードを解除します。
Shuffle シャッフル再生モードを設定します。	**Songs：**すべての曲をシャッフル再生します。 **Albums：**再生中のアルバムの曲をシャッフル再生します。 **OFF：**シャッフル再生モードを解除します。

再生のしかた

❏ **操作のながれ**
再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

機器を再生する

❏ **ブルーレイディスク /DVD プレーヤーを再生する**
（☞31 ページ）
❏ **iPod® を再生する**（☞31 ページ）
❏ **再生中にできる操作**
- 一時的に音を消す（☞33 ページ）
- ヘッドホンで音を聴く（☞33 ページ）
- ディスプレイの明るさを切り替える（ ディマー ）（☞33 ページ）

サラウンドモードを選ぶ（☞33 ページ）

音場効果を調節する（☞35 ページ）

ご注意
- 再生する際は、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

機器を再生する

ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーの再生手順です。他の機器の再生も同じようにおこなってください。

1 **再生の準備をする。**
① テレビ、サブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 **本機の電源を入れる。**
（☞17 ページ「電源を入れる」）

3 BD/DVD **を押して、BD/DVD の入力ソースを選ぶ。**

4 **プレーヤーを再生する。**
あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

5 音量 ▲▼ **（主音量調節ボタン）を押して、音量を調節する。**

【調節できる範囲】 **0.0 ~ 99.0**

※ 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

6 **お好みのサラウンドモードを選ぶ。**
（☞33 ページ「サラウンドモードを選ぶ」）

7 **お好みの音場効果を調節する。**
（☞35 ページ「音場効果を調節する」）

iPod® を再生する

DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W：別売）をご使用になると、iPod の音楽やビデオを再生することができます。
あらかじめ iPod 用コントロールドックを接続してください（☞16 ページ「iPod®」）。

iPod® の音楽を聴く

1 **再生の準備をする。**
① iPod 用コントロールドックに、iPod® をセットする。
② "Video In" の設定を "S-VIDEO" にする。
（☞29 ページ「VCR/iPod の映像入力に使う端子を変更する」）

2 **本機の電源を入れる。**
（☞17 ページ「電源を入れる」）

3 VCR (iPod) **を押して、操作 1- ②で割り当てた入力ソースを選ぶ。**

（iPod の画面）

※ 上記の画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。

4 リモート/ブラウズ を押して、表示モードを選ぶ。

iPod の収録内容を表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード：テレビの画面に表示します。

＊ 半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）” に置き換えて表示します。

- 表示できる文字の種類は次のとおりです。

【英大文字】	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【英小文字】	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【記号】	’ ( ) : + , – . / : ; < = > ? [ ] ¥（空白）
【数字】	0123456789

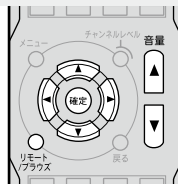
リモートモード：iPod の画面に表示します。

- 本機のディスプレイに “Dock Remote” を表示します。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	写真ファイル	×	○ ＊2
	映像ファイル	○ ＊1	○ ＊2
操作できるボタン	リモコン	○	○
	iPod®	×	○

＊1：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用しているときに再生できます。

＊2：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 △▽ で項目を選び、確定 または ▷ で再生したい音楽またはビデオファイルを選ぶ。

6 確定 または ▷ を押す。

再生をはじめます。

7 音量 ▲▼（主音量調節ボタン）を押して、音量を調節する。

【調節できる範囲】 0.0 ~ 99.0

※ 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

8 お好みのサラウンドモードを選ぶ。

（☞33 ページ「サラウンドモードを選ぶ」）

9 お好みの音場効果を調節する。

（☞35 ページ「音場効果を調節する」）

❑ 停止するとき

再生中に ■ を押す。

❑ 一時停止するとき

再生中に ▶/II を押す。

もう一度押すと、再生を再開します。

❑ 頭出しするとき

再生中に ⏮（再生中の曲の頭出し）または ⏭（次の曲の頭出し）を押す。

❑ リピート再生、シャッフル再生

（☞30 ページ「iPod の再生モードを設定する」）

- 圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をするときは、RESTORER モードをおすすめします（☞38 ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は “Mode 3” です。
- ブラウズモードの再生中に ステータス を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認することができます。
- “iPod Info.”（☞28 ページ）で、メニューの表示時間を設定することができます。メニュー表示中に △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- iPod は、電源 切 で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを iPod 以外に切り替えても、iPod を取り外すことができます。

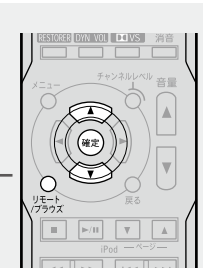
ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

iPod® の写真や映像を見る

スライドショーやビデオ機能がある iPod で、iPod に保存してある写真や映像のデータをテレビ画面に再生することができます。

1 リモート/ブラウズ を押して、リモートモードに切り替える。

本機のディスプレイに “Dock Remote” を表示します。

2 iPodの画面を見ながら △▽ を押して、“写真” または “ビデオ” を選ぶ。

3 再生したい画像が表示されるまで、確定 を押す。

iPod の写真やビデオデータをテレビに映し出すには、iPod の “スライドショー設定” または “ビデオ設定” の “TV 出力” を “オン” に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

再生中にできる操作

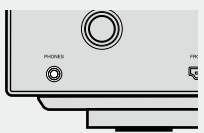
一時的に音を消す（ミューティング）

消音 を押す。

- "Mute Lev."（☞28 ページ）で設定したレベルまで音量が下がります。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 消音 を押してください。主音量を調節しても解除します。

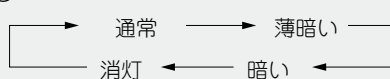
ヘッドホンで音を聴く

本体の PHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。

自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- オートセットアップや各設定をおこなうときは、ヘッドホンをはずしてください。

ディスプレイの明るさを切り替える（ディマー）

ディマー を押す。

サラウンドモードを選ぶ

サラウンドモードを選ぶことによって、お好みの音場効果を加えたサラウンド再生をお楽しみいただけます。

① 2.1 チャンネルのスピーカーでサラウンド再生をする（ドルビーバーチャルスピーカー（2.1ch）再生）

1 入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞31ページ）。

2 DVS を押して、サラウンドモードを選ぶ。

Ref	：リファレンスモード。ドルビーバーチャルスピーカーの標準モードです。
Wide	：ワイドモード。広がり感を強調したモードです。

- 本体のドルビーバーチャルスピーカー表示が点灯します。

②マルチチャンネルのスピーカーでサラウンド再生をする（サラウンド再生）

このモードはお使いのシステムが 5.1 チャンネルや 7.1 チャンネルのマルチチャンネルシステムのときにお楽しみいただけます。

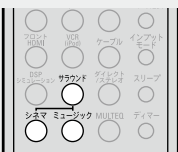
操作のしかた

選択できるサラウンドモードは次の内容により異なります。
- **入力している音声信号形式**
- **入力している音声のチャンネル数**

1 入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞31ページ）。

2 サラウンド を押して、サラウンドモードを選ぶ。

❏ **マルチチャンネルソース**

選択できるサラウンドモードは入力ソースによって異なります。

❏ **2チャンネルソース**

DOLBY PLⅡx, DOLBY PLⅡ *	：DOLBY PLⅡx、DOLBY PLⅡでデコードしてサラウンド再生します。
DTS NEO:6	：DTS NEO:6 でデコードしてサラウンド再生します。

*：DOLBY PLⅡx は、サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選べます。

2チャンネルソースを再生するときの操作です

3 "Mode"（☞35ページ）でソースに合わせたモードを選ぶ。

❏ **DOLBY PLⅡx, DOLBY PLⅡ**

Cinema	：映画ソースに適したモードです。
Music	：音楽ソースに適したモードです。
Game	：ゲームに適したモードです。
Pro Logic	：プロロジック再生モードです。PLⅡデコーダーで再生する場合に選べます。このモードを選ぶと、ディスプレイに"DOLBY PL"を表示します。

❏ **DTS NEO:6**

Cinema	：映画ソースに適したモードです。
Music	：音楽ソースに適したモードです。

※ 選択できるモードは、再生している入力ソースにより異なります。

"Cinema" および "Music" は、リモコンの シネマ および ミュージック でも選択することができます。

再生中のサラウンドモードの表示

❏ マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

マルチチャンネルソースのスタンダード再生では、入力しているマルチチャンネル音声の信号形式を検出し、自動的にその専用デコーダーを動作させて、サラウンド再生をおこないます。

このモードはお使いのシステムが 5.1 チャンネルや 7.1 チャンネルのマルチチャンネルシステムのときにお楽しみいただけます。

入力信号		ディスプレイの表示内容
Dolby Digital	Dolby Digital（2チャンネル以外）/ Dolby Digital EX	DOLBY DIGITAL
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA
		DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC
	Dolby Digital Plus（＊1）	DOLBY DIGITAL++PLIIx C
		DOLBY DIGITAL++PLIIx M
	Dolby TrueHD（＊1）	DOLBY TrueHD
		DOLBY HD+EX
		DOLBY HD+PLIIx CINEMA
		DOLBY HD+PLIIx MUSIC
DTS	DTS（5.1チャンネル）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
		DTS+PLIIx CINEMA
		DTS+PLIIx MUSIC
		DTS+NEO:6
		DTS ES MTRX6.1（＊2）
		DTS ES DSCRT6.1（＊3）
		DTS 96/24（＊4）
	DTS-HD（＊1）	DTS-HD HI RES
		DTS-HD MSTR
		DTS-HD+NEO:6
		DTS-HD+PLIIx CINEMA
		DTS-HD+PLIIx MUSIC
PCM	PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH IN
		MULTI IN+PLIIx CINEMA
		MULTI IN+PLIIx MUSIC
		MULTI CH IN 7.1
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC（5.1チャンネル）	MPEG2 AAC
		AAC + Dolby EX
		AAC + PLIIx CINEMA
		AAC + PLIIx MUSIC
	MPEG-2 AAC（1+1チャンネル）	MPEG2 AAC

＊1：HD AUDIO 信号が入力されたときに、“HD AUDIO”表示が点灯します。
＊2：入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、“AFDM”の設定（☞36 ページ）が“ON”のときに表示します。
＊3：入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
＊4：入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。

❏ AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

③ DENON オリジナルサラウンドで再生する

7 通りの DENON オリジナルサラウンドモードの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。

1 入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞31ページ）。

2 DSP シミュレーション を押して、サラウンドモードを選ぶ。

5CH/7CH STEREO	：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。＊1 ＊3
ROCK ARENA	：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB	：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
MONO MOVIE	：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。＊2
VIDEO GAME	：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX	：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	：フロントスピーカーでサラウンド効果を楽しむモードです。＊1 ＊3

＊1：スピーカーの設定が 2.1ch の場合、選択できません。
＊2：モノラル録音ソースを“MONO MOVIE”モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）の入力では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
＊3：ヘッドホン使用時は選択できません。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ご注意

入力信号がドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD の場合、DENON オリジナルサラウンドは選べません。

④ ダイレクト再生をおこなう

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。
“Small”に設定しているスピーカーには低音域成分を含まない信号を出力します。このモードを充分にお楽しみいただくためには、低音域の再生能力のあるスピーカーをお使いください。

1 入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞31 ページ）。

2 ダイレクト/ステレオ を押して“DIRECT”を選ぶ。

再生中のサラウンドモードの表示

入力信号	ディスプレイ表示内容
アナログ信号 PCM（2ch） Dolby Digital ソース DTS ソース その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
PCM（multi ch）	MULTI CH DIRECT
	M DIRECT + PLIIx CINEMA
	M DIRECT + PLIIx MUSIC
	M DIRECT 7.1

⑤ ステレオ再生をおこなう

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。
フロントスピーカー(左 / 右)とサブウーハーから音声を出力します。

1 入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞31 ページ）。

2 ダイレクト/ステレオ 押して“STEREO”を選ぶ。

音場効果を調節する（Parameter）

サラウンド音声の再生音をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、入力している信号や設定しているサラウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サラウンドパラメーター 一覧表」（☞44 ページ）をご覧ください。

ご注意

設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。

音場効果を調節する（Surround Parameter）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Mode 2CH ソースをサラウンド再生するときの再生モードを設定します。	**スピーカー設定が2.1チャンネルのとき** ❏**ドルビーバーチャルスピーカーモードのとき** **DVS Mode** **Ref：**ドルビーバーチャルスピーカーの標準モードです。 **Wide：**広がり感を強調したモードです。 **Decode Mode：**2ch 信号を DVS 再生する場合のモードです。 **Cinema：**映画ソースに適したモードです。 **Music：**音楽ソースに適したモードです。 **スピーカー設定が2.1チャンネル以外のとき** ❏**PLⅡx または PLⅡモードのとき** **Cinema：**映画ソースに適したモードです。 **Music：**音楽ソースに適したモードです。 **Game：**ゲームに適したモードです。 **ProLogic：**ドルビープロロジック再生（4 チャンネル（フロント左 / 右、センター、サラウンド（モノラル））再生）モードです。PLⅡモードのときに選択できます。 ❏**NEO:6 モードのとき** **Cinema：**映画ソースに適したモードです。 **Music：**音楽ソースに適したモードです。 • "Music" モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。 • シネマ ○ または ミュージック ○ を押して、"Cinema" モードと "Music" モードを設定することもできます。 • DVS を押して、ドルビーバーチャルスピーカーの "Ref" モードと "Wide" モードを設定することもできます。
Cinema EQ 映画のセリフの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**OFF：**設定しません。 **ON：**設定します。
ダイナミックレンジコンプレッション（D.Comp） 静かな音と大きな音のレベルの差を圧縮します。	**Low/Mid/High：**圧縮量を設定します。 **OFF：**ダイナミックレンジを圧縮しません。 D.Comp 機能に対応している DTS ソフトの再生時に "D.Comp" 表示を点灯します。
ダイナミックレンジコントロール（DRC） 静かな音と大きな音のレベルの差を圧縮します。	**Auto：**ドルビー TrueHD ソースのダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。 **Low/Mid/High：**圧縮量を設定します。 **OFF：**ダイナミックレンジを圧縮しません。
LFE 低域信号（LFE）レベルを調節します。	**-10dB ～ 0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース："0dB" • DTS の映画ソース："0dB" • DTS の音楽ソース："–10dB"
Center Image センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0 ～ 1.0（0.3）**
Panorama フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**ON：**設定します。 **OFF：**設定しません。
Dimension 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0 ～ 6（3）**
Center Width センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0 ～ 7（3）**
Delay Time 遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。	**0ms ～ 300ms（30ms）**
Effect Level エフェクトレベルを調節します。	**1 ～ 15（10）** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。
Room Size 音場空間の大きさを設定します。 ご注意 "Room Size" は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。	**Small：**小さな音場空間のイメージ **Medium small：**やや小さな音場空間のイメージ **Medium：**標準的な音場空間のイメージ **Medium large：**やや大きな音場空間のイメージ **Large：**大きな音場空間のイメージ

音場効果を調節する（Parameter）

設定項目	設定内容
AFDM（オートフラグディテクトモード） ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。	**<u>ON</u>：**設定します。 **OFF：**設定しません。
Surround Back サラウンドバックチャンネルの生成方法を設定します。	**❏2 チャンネルソースのとき** **<u>ON</u>：**サラウンドバックチャンネルを使用します。 **OFF：**サラウンドバックチャンネルを使用しません。
	❏マルチチャンネルソースのとき サラウンドバック信号を含まないソースのサラウンドバックチャンネルの生成方法やソースに含まれるサラウンドバック信号を再生しないときに設定します。再生するソースの音声信号を確認して設定してください。 **<u>OFF</u>：**サラウンドバックチャンネルを再生しません。 **MTRX ON：**サラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx CINEMA**＊1**：**Dolby pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx MUSIC**＊2**：**Dolby pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES MTRX：**DTS ソースのサラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES DSCRT**＊3**：**6.1ch DTS ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生します。 **DSCRT ON**＊3**：**7.1ch ソースに含まれるサラウンドバック信号を再生します。 ＊1：“Speaker Config.”（☞26 ページ）の設定で、“S.Back”が“2ch”のときに選べます。 ＊2：“Speaker Config.”（☞26 ページ）の設定で、“S.Back”が“2ch”または“1ch”のときに選べます。 ＊3：“AFDM”が“オン”のときは、AFDM 機能によりサラウンドバックチャンネルを再生します。“AFDM”が“オフ”のときに選ぶとソースのサラウンドバック信号を再生します。 サラウンド を押して設定することもできます。 **ご注意** “S.Back”（☞26 ページ）の設定が“Large”または“Small”のときに有効です。

設定項目	設定内容
Subwoofer サブウーハー出力をするかしないかを設定します。	**<u>ON</u>：**出力します。 **OFF：**出力しません。
Default サラウンドパラメーターのすべての設定内容を初期設定に戻します。	**Yes：**初期設定に戻します。 **<u>No</u>：**初期設定に戻しません。

トーンを調節する（Tone Control）

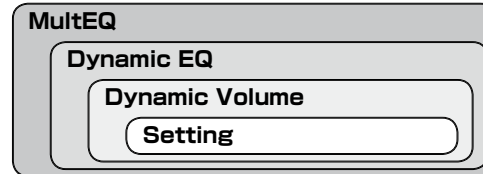
<u>お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。</u>

設定項目	設定内容
Tone Control トーンコントロールのオン / オフを設定します。 “Dynamic EQ”（☞37 ページ）の設定が“OFF”のときに設定できます。	**ON：**低音や高音のトーンを調節できます。 **<u>OFF</u>：**トーンの調節をしないで再生します。 ダイレクト再生中は、トーンの調節ができません。
Bass 低音を調節します。 “Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。	**-6dB ～ +6dB**（**<u>0dB</u>**）
Treble 高音を調節します。 “Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。	**-6dB ～ +6dB**（**<u>0dB</u>**）

MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume を設定する（Audyssey Settings）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

- オートセットアップ（☞20 ページ）をおこなうと MultEQ/Dynamic EQ/Dynamic Volume の機能が有効になります。
- 各機能の動作条件は次のとおりです。
  - Dynamic EQ：
    “MultEQ”が“ON”のとき
  - Dynamic Volume：
    “Dynamic EQ”が“ON”のとき
  - Setting：
    “Dynamic Volume”が“ON”のとき

ご注意

オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ/Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できなくなります。または“Run Audyssey”を表示します。
その場合は再度オートセットアップをおこなうか、“Restore”（☞24 ページ）をおこなってオートセットアップ実行後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ 各スピーカーの周波数特性を補正します。 ご注意 ヘッドホンを使用しているとき、“MultEQ”は“OFF”になります。	**Audyssey：**すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R：**フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat：**すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **OFF：**“MultEQ”イコライザーを使用しません。 • “Audyssey”、Audyssey Byp. L/R”または“Audyssey Flat”を選ぶと、“AUDYSSEY MULTEQ”表示が点灯します。 • オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更したときは、“AUDYSSEY MULTEQ”表示が点灯します。 • MULTEQ を押して設定することもできます。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 “MultEQ”（☞37 ページ）の設定が“OFF”以外のときに設定できます。	**ON：**“Dynamic EQ”イコライザーを使用します。 **OFF：**“Dynamic EQ”イコライザーを使用しません。 • “ON”にすると“AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ”を表示します。 • “MultEQ”を“OFF”に設定すると、“Dynamic EQ”も自動的に“OFF”に切り替わります。 ご注意 “Dynamic EQ”を“ON”に設定すると、“Tone Control”は“OFF”になります。
	Reference Level Offset：Audyssey Dynamic EQ は一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。ボリュームレベルがリファレンスから下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ はフィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB / 10dB / 15dB）が可能です。以下が推奨の設定レベルになります。 **0dB**（お買い上げ時の設定・フィルムリファレンス）**：**初期の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB：**クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB：**ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 **15dB：**ポップやロックなどの非常に高いボリュームレベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 “Dynamic EQ”が“ON”のときに設定できます。

音場効果を調節する（Parameter）

設定項目	設定内容
Dynamic Volume テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）を自動的に調整します。 “Dynamic EQ”（☞37 ページ）の設定が“ON”のときに設定できます。	**ON：**“Dynamic Volume” イコライザーを使用します。Dynamic Volume の効果は、“Setting”（☞38 ページ）で設定した値になります。 **<u>OFF</u>：**“Dynamic Volume” イコライザーを使用しません。 ● “ON” にすると “AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL” を表示します。 ● “MultEQ” を “OFF” に設定すると、“Dynamic Volume” も自動的に “OFF” に切り替わります。 ● DYN VOL を押して設定することもできます。 Dynamic EQ / Volume : ON（AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL）→ Dynamic EQ : ON / Volume : OFF（AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ）→ Dynamic EQ / Volume : OFF（AUDYSSEY MULTEQ）→
Setting “Dynamic Volume” の効果を設定します。 “Dynamic EQ”（☞37 ページ）の設定が“ON”のときに設定できます。	**Day：**最小で設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **Evening：**中間で設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **<u>Midnight</u>：**最大で設定します。すべての音を一定の大きさにします。

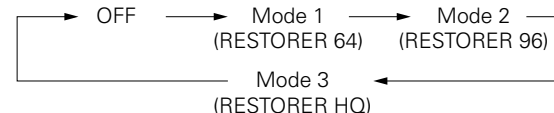
圧縮音声を圧縮前に近い状態に復元して再生する（RESTORER）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

- MP3、WMA（Windows Media Audio）などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。
- アナログ入力や PCM 信号（fs ＝ 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。

設定内容

<u>OFF</u>：RESTORER を使用しません。
Mode1（RESTORER 64）**：**高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。
Mode2（RESTORER 96）**：**圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。
Mode3（RESTORER HQ）**：**高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

- “iPod” のお買い上げ時の設定は、“Mode3” です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて “OFF” です。
- “OFF” 以外に設定すると、“RSTR” 表示が点灯します。
- 再生中に RESTORER を押して設定することもできます。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節する（Audio Delay）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定内容

<u>0ms</u> ～ **200ms**

- HDMI やコンポーネントビデオ信号の再生中に △ を押して “OSD” を “OFF” に設定すると、映像を見ながら調節することができます。解除するときは、もう一度 △ を押してください。メニュー画面のみの表示に切り替わります。
- “DIRECT” および “STEREO” モード（Front Speaker：“Large”、Tone Control：“OFF”、MultEQ：“OFF”、RESTORER：“OFF”）の再生中は、調節できません。
- オートリップシンク補正機能が動作している場合は、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “Audio Delay” の設定は、入力ソースごとに記憶します。

本機の設定状態や入力信号の情報などを確認する（Information）

設定項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。	**Select Source**（入力ソース選択）/ **Surround Mode**（サラウンドモード）/ **Input Mode**（入力モード）/ **Decode Mode**（デコードモード）/ **HDMI**（HDMI 入力端子の割り当て）/ **Digital**（デジタル入力端子の割り当て）/ **Component**（コンポーネントビデオ入力端子の割り当て）/ **iPod Dock**（iPod 用コントロールドックの割り当て）/ **Video Select**（ビデオセレクト機能）/ **Source Level**（ソースレベル） ステータス を押して本体のディスプレイに現在の設定状態を表示することもできます。
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode：**設定されているサラウンドモード **Signal：**入力信号の種類を表示 **fs：**入力信号のサンプリング周波数 **Format:**入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **Offset：**ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag：**サラウンドバックチャンネルが含まれている信号を入力しているときに表示します。入力信号がドルビーデジタル EX、DTS-ES マトリックスのときは“MATRIX”、DTS-ES ディスクリート信号などのときは“DISCRETE”を表示します。
HDMI Information HDMI の情報を表示します。	**HDMI Signal Information**（HDMI 信号情報） • **Resolution**（解像度）/ **Color Space**（色空間方式）/ **Pixel Depth**（ビット数）
	HDMI Monitor Information（HDMI モニター情報） • **Interface**（インターフェース）/ **Support Resolution**（対応解像度）
Auto Surround Mode オートサラウンドモードに記憶されている内容を表示します。	**Analog/PCM**（アナログ /PCM）/ **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル）/ **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル）/ **Multi CH**（マルチチャンネル）
Quick Select “クイックセレクト”に記憶している内容を表示します。	**Quick Select 1**（映画）/ **Quick Select 2**（音楽）/ **Quick Select 3**（ゲーム） • **Name**（クイックセレクト名）/ **Input Source**（入力ソース）/ **Video Select**（ビデオセレクト機能）/ **Volume Level**（音量レベル）/ **MultEQ** / **Dynamic EQ** / **Dynamic Vol**/ **Front SP** / **Analog/PCM**（アナログ /PCM）/ **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル）/ **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル）/ **Multi CH**（マルチチャンネル）

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能に対応しているテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

❑ テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源を切ることができます

＊ テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにできます。

❑ テレビの操作で、音声を出力する機器（本機またはテレビ）の切り替えができます

❑ テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます

❑ テレビの入力切り替え操作に連動して、本機の入力ソース切り替えができます

❑ プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります

- テレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタル接続をしてください。（☞15 ページ「テレビを接続する」）
- 本機能をお使いになる場合は、“HDMI Control”（☞27 ページ）を“ON”に設定してください。

ご注意

- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。

1 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**

“HDMI Control”（☞27 ページ）を“ON”に設定してください。

※ 接続機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

※ いずれかの機器の電源コンセントを抜いた場合は、手順 1、2 をおこなってください。

3 **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**

4 **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。**

5 **テレビの電源をスタンバイにし、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- 本機の設定は正しいか。
  - ・“HDMI Control”の設定（☞27 ページ）が“ON”になっているか。
  - ・“Power Off Control”の設定（☞27 ページ）が“ON”になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

以下の操作をおこなうと、設定が初期化される場合があります。その場合には、操作 2、3 をおこなってください。

- “HDMI”の設定変更（☞27 ページ）
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の追加

設定時間後に電源をスタンバイにする（スリープタイマー機能）

設定した時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイになるように設定できます。

スリープ ○ を押して設定したい時間を表示する。

ディスプレイの“SLEEP”表示が点灯します。

- スリープ ○ を押すたびに、時間が次のように切り替わります。

Sleep:OFF → Sleep：120min → Sleep：90min → Sleep：60min → Sleep：30min → Sleep:OFF

- 時間の表示は約 5 秒後に消え、設定を確定します。
- 設定した時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイになります。

❑ 残り時間を確認するとき

スリープ ○ を 1 回押す。

約 5 秒間残り時間を表示します。

❑ スリープタイマーを解除するとき

スリープ ○ を押して“OFF”を選ぶ。

再生中の音声を変えずに他の入力ソースの映像を再生する（ビデオセレクト機能）

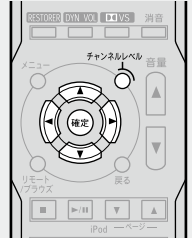
音声はそのままに、映像入力をお好みの入力ソースに切り替えます。

再生したい映像が表示されるまで ビデオ選択 ○ を押す。

※ 解除する場合は、ビデオ選択 ○ で“SOURCE”を選んでください。

ご注意

- HDMI 入力信号は選べません。
- HDMI 信号を再生中、HDMI モニター出力端子に他の入力ソースは出力できません。

各スピーカーの音量を調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各スピーカーの音量を調節することができます。

各スピーカーの音量を調節する。

1 チャンネルレベル を押して調節したいスピーカーを選ぶ。

2 ◁ ▷ で音量を調節する。

【調節できる範囲】 –12 dB ~ 12 dB

※ サブウーハーの場合“-12dB”のときに音量を下げる操作をおこなうと、“OFF（なし）”の設定になります。

ヘッドホンプラグを挿しているときは、ヘッドホン用の設定画面を表示します。

スピーカーの音量をまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / センタースピーカー / フロントハイトスピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のそれぞれの音量をまとめて調節（減衰）することができます。

1 チャンネルレベル または ▽ で“Fader”を選び、◁ または ▷ で調節する項目を選ぶ。

2 ◁ ▷ でスピーカーの音量を調節する。

- フェーダー機能は、サブウーハーには働きません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能）

手順 1 の設定内容をまとめて記憶できます。よく使う設定を記憶させておくと、次回の設定が簡単におこなえます。また常に同じ再生環境でお楽しみいただくことができます。

- 3 通りの設定ができます。

記憶のさせかた

1 下記を記憶させたい状態に設定する。

① 入力ソース（☞31ページ）
② 入力モード（☞30ページ）
③ サラウンドモード（☞33ページ）
④ Audysseyの設定（MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume）（☞37ページ）
⑤ 音量の設定（☞31ページ）
⑥ ビデオセレクトの設定（☞40ページ）

2 ディスプレイに“Memory”が表示されるまで、記憶させたい 映画 音楽 ゲーム を長押しする。

手順1で設定している内容を記憶します。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
映画（MOVIE）	BD/DVD	40
音楽（MUSIC）	BD/DVD	40
ゲーム（GAME）	F.HDMI	40

呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている 映画 音楽 ゲーム を押す。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

入力ソースごとに最後に設定していた内容（入力モード、サラウンドモード、HDMI出力モード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volumeやオーディオディレイなど）を記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー機能

スタンバイになる直前の入力ソースを記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイになる直前のファンクションになります。

バックアップメモリー機能

電源を切ったり電源コードを抜いたりした場合でも、各種設定を約 1 週間保持します。

その他の情報

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドフォーマット

Dolby Digital（ドルビーデジタル）

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）

Dolby Digital Plus は、ドルビーデジタルを改良した信号フォーマットで、最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のドルビーデジタルに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD（ドルビー TrueHD）

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
サンプリング周波数とチャンネルも最大 96kHz/7.1ch に対応し、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジック II）

Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz 〜 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビープロロジック IIx）

Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した "Music" モードと映画再生に適した "Cinema" モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な "Game" モードがあります。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタル EX）

ドルビーデジタル EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット "DOLBY DIGITAL SURROUND EX" を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1ch のサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1ch での音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby VS（ドルビーバーチャルスピーカー）

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）技術は、ドルビーラボラトリーズ社の専有技術により、フロント 2 チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が体験できます。

DTS サラウンドフォーマット

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、最大 96kHz/7.1ch に対応し、さらにロスレス音声符号化技術によってマスター音声の忠実な再現を可能としています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ サラウンド

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 Cinema」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 Music」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. ©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。

Audyssey

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME

本機は、Audyssey Laboratories からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ™ および Audyssey Dynamic Volume™ は、Audyssey Laboratories の商標です。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2 AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム
  MAIN プロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数
  8kHz から 96kHz まで対応
- チャンネル数
  最大 48 チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能
  LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドパラメーター 一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード															
	チャンネル出力					パラメーター ※（ ）内は初期値										
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	サブ ウーハー	D. Comp ＊1	LFE ＊2	AFDM ＊1	サラウンド バック	Cinema EQ.	Mode	Room Size	Effect Level	Delay Time	Subwoofer	DRC ＊3
DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	○	○ (Auto)
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (Auto)
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (Auto)
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注2)	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (Auto)
DOLBY VS	○	×	×	×	○	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	○	○	×	×	×	×	○
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	○ (Auto)
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	×	×	○ (30 ms)	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○：信号あり / 制御可能
×：信号なし / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、オン / オフ可能

○： 信号あり / 制御可能
×： 信号なし / 制御不可能
注 1：Mode”の設定（☞35 ページ）が“Cinema”のときに選べます。
注 2：Mode”の設定（☞35 ページ）が“Cinema”または“PL”のときに選べます。

ご注意

＊1：Dolby Digital および DTS 信号再生時
＊2：Dolby Digital、DTS およびリニア PCM（マルチチャンネル）
＊3：Dolby TrueHD 信号再生時

サラウンドモード	信号と調節可能なモード								
	パラメーター　※（　）内は初期値								
	PRO LOGIC Ⅱ/Ⅱx MUSICモードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	Tone Control (注4)	MultEQ	Dynamic EQ (注5)	Dynamic Volume (注6)	RESTORER (注7)
	Panorama	Dimension	Center Width	Center Image					
DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	○ (注4)	○ (注4)	○ (注4)	×
STEREO	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MULTI CH IN	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY VS	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DTS NEO:6	×	×	×	○ (0.3)	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY DIGITAL Plus	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY TrueHD	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS SURROUND	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS-96/24	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS-HD	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
MPEG2 AAC	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
5CH/7CH STEREO	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
ROCK ARENA	×	×	×	×	○ (注3)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
JAZZ CLUB	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MONO MOVIE	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIDEO GAME	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MATRIX	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIRTUAL	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○

○：　制御可能
×：　制御不可能
注３：BASS +6dB, TREBLE +4dB
注４：“Dynamic EQ”の設定（☞37 ページ）が“ON”の場合は、設定できません。
注５：“MultEQ”の設定（☞37 ページ）が“OFF”の場合は、設定できません。
注６：“Dynamic EQ”の設定（☞37 ページ）が“OFF”の場合は、設定できません。
注７：“RESTORER”は入力信号が、アナログまたは PCM48k、44.1k の場合に設定できます。

入力信号に対するサラウンドモード表示

マルチチャンネル設定

サラウンドモード	注	入力信号																		
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC		
		アナログ	リニアPCM (multi ch)	リニアPCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)
SURROUND																				
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR		×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS-HD HI RES		×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	×	×	×	●◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	×	×	×	●◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	×	×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + NEO:6	*1	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DTS NEO:6 MUSIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD		×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D+) (HD) +EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	●◎	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	*1	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	*1	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	*1	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
AAC																				
AAC + DOLBY EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIx CINEMA	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
MPEG2 AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN		×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

サラウンドモード	注	入力信号																		
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC		
		アナログ	リニアPCM (multi ch)	リニアPCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)
SURROUND																				
MULTI CH IN																				
MULTI IN + Dolby EX	*1	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN 7.1		×	● ◎ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DIRECT																				
DIRECT		○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MULTI CH DIRECT		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + Dolby EX	*1	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT 7.1		×	○ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSP SIMULATION																				
5CH/7CH STEREO	*3	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2 チャンネル / 2.1 チャンネル設定

サラウンドモード	注	入力信号																		
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC		
		アナログ	リニアPCM (multi ch)	リニアPCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)
DOLBY VS																				
DOLBY VS		○	○	○	○ *4	○	○	○	○	○	○ *4	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注

*1： サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、選べません。
*2： サラウンドバックスピーカーを“1ch”または“None”に設定している場合は、選べません。
*3： サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、“5CH STEREO”を表示します。
*4： 入力ソースのサンプリング周波数が 192kHz の場合は、選べません。

●： 初期状態で選ばれるモード
◎： “AFDM”が“ON”に設定されているときに固定されるモード
○： 選択可能なモード
×： 選択不可能なモード

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	●外部からのノイズや妨害によって本機が誤動作している。	●マイコンを初期化してください。	50
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	17
スピーカーから音が出ない。	●入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続が不完全である。	●接続を確認してください。	12
	●再生したい機器と入力ソースが合っていない。	●接続を確認して、適切な入力ソースを選んでください。	31
	●主音量が小さすぎる。	●主音量を適切な大きさに調節してください。	33
	●消音（ミューティング）モードになっている。	●消音（ミューティング）モードを解除してください。	33
	●ヘッドホンを接続している。	●ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	33
	●デジタル信号が入力されていない。	●接続を確認し、デジタル入力の設定をした入力ソースを選んでください。	30
ディスプレイの表示が消える。	●ディマー機能で、本機のディスプレイ表示を“OFF”にしている。	●“OFF”以外の設定にしてください。	33
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	●機器内部の温度上昇により、保護回路が働いている。	●一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	—
		●本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用している。	●スピーカーは、指定のインピーダンスのものを使用してください。	14
	●スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いている。	●電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどとした後で、もう一度接続し直してください。	14
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●本機のアンプ回路が故障している。	●電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	—
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。	●新しい乾電池と交換してください。	7
	●本体から離れすぎているか、角度が良くない。	●リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲で操作してください。	7
	●本機とリモコンの間に障害物がある。	●障害物を取り除いてください。	7
	●乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	●正しい極性でセットしてください。	7
	●本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっている。	●受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	7

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビなどのモノラル音源を、“サラウンド”（Dolby/DTS Surround）モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、“サラウンド”（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	33
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2 チャンネル再生用（“STEREO”または“DIRECT”）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	34
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●“Speaker Config.” の “Subwoofer” を “No” に設定している。 ●サブウーハーが正しく接続されていない。 ●サブウーハーの音量が小さくなっている。	●サブウーハーの電源を入れてください。 ●“Subwoofer” の設定を “Yes” にしてください。 ●接続を確認してください。 ●サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	— 25 12 41
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●“S.Back” の設定が “None” になっている。 ●6.1/7.1 チャンネル再生用のサラウンドモードになっていない。 ●“Parameter” – “Surround Parameter” – “Surround Back” が “OFF” に設定されている。	●“S.Back” を “None” 以外に設定してください。 ●サラウンド再生用のモードを選んでください。 ●“Parameter” – “Surround Parameter” – “Surround Back” を “OFF” 以外に設定してください。	26 33 36
DTS 音声が出力されない。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。 ●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。 ●入力モードの設定が、“PCM” になっている。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ●DTS 対応のプレーヤーをお使いください。 ●デコードモードを “Auto” または “DTS” にしてください。	— — 30

症 状	原 因	対 策	関連ページ
HDMI の音声信号がスピーカーに出力されない。	●“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Out” の設定が “TV” になっている。	●“AMP” に設定してください。	27
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Out” の設定が “AMP” になっている。	●“TV” に設定してください。	27
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	●HDMI 接続をしていない。 ●ブルーレイディスクプレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。 ●ブルーレイディスクプレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。	●HDMI 接続をしてください。 ●ブルーレイディスクプレーヤーの音声出力を設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ●DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤーをお使いください。	14 — —

【ビデオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
映像が映らない。	●本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続が不完全である。 ●本機と接続したテレビの入力端子が入力設定と合っていない。 ●使用している VCR/iPod 映像入力端子が“Input Setup”–“Video In” の設定と異なる。	●接続を確認してください。 ●テレビの入力端子と入力設定を合わせてください。 ●“Input Setup” – “Video In” の使用する映像入力の設定を、使用している映像入力端子に合わせてください。 ●ビデオセレクト機能で HDMI のソースは選べません。	14 ～ 17 — — 40
DVD から VCR にダビングできない。	—	●故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	—

症 状	原 因	対 策	関連ページ
メニュー画面や状態表示を表示しない。	•HDMI 端子から映像を入力しているときは状態表示をしません。	—	11
	•状態表示が“OFF”になっている。	•“Manual Setup”-“Option Setup”-“On-Screen Display”-“Text”を“ON”に設定してください。	28
	•主音量の表示が“OFF”になっている。	•“Manual Setup”-“Option Setup”-“On-Screen Display”-“Master Volume”を“OFF”以外に設定してください。	28
	•iPod 操作時の表示が“OFF”になっている。	•“Manual Setup”-“On-Screen Display”-“iPod Info.”を“OFF”以外に設定してください。	28

【HDMI】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
HDMI オーディオ信号がスピーカーに出力されない。	•HDMI の入力設定が合っていない。	•HDMI オーディオ信号をスピーカーから出力するときは、“AMP”に設定してください。	27
HDMI 接続で映像が映らない。	•HDMI 端子の接続が不完全である。	•接続を確認してください。	15
	•本機に接続されたテレビなどが、著作権保護（HDCP）に対応していない。	•著作権保護（HDCP）に対応したテレビを接続してください。	14
	•接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とテレビ側の入力対応フォーマットが合っていない。	•接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とテレビの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	14
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	•HDMI の入力設定が合っていない。	•HDMI オーディオ信号をテレビから出力するときは、“TV”に設定してください。	27

症 状	原 因	対 策	関連ページ
接続機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 •電源の入/切 •音声を出力する機器の切り替え •音量の調節 •入力ソースの切り替え	•HDMI の CEC 機能が働いている。	•Manual Setup”–“HDMI Setup”–“HDMI Control”を“OFF”に設定してください。 各機器の電源の入/切のみ操作したい場合は、“Power Off Control”を“OFF”に設定してください。	27

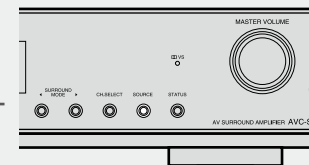
【iPod】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	•ケーブルが正しく接続されていない。	•接続をやり直してください。	16
	•iPod 用コントロールドックの AC アダプターがコンセントに挿入されていない。	•AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	—

すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す（マイコンの初期化）

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 **スタンバイ中に本体の SOURCE を約5秒間押す。**

電源がオンになり、ディスプレイのすべての表示が点灯します。（初期化が実行されました。）

2 **ボタンから指を離す。**

保障と修理について

保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

❏ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❏ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❏ 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

❏ 修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号…保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

AVアンプユニット　AVC-S500HD

❏オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力 :	フロント：	27 W+27 W
	センター：	27 W
	サラウンド：	27 W+27 W
	サブウーハー：	27 W
		（負荷 6 Ω、1 kHz T.H.D 0.7%）
実用最大出力 :	フロント：	34 W+34 W
	センター：	34 W
	サラウンド：	34 W+34 W
	サブウーハー：	34 W
		（負荷 6 Ω、1 kHz T.H.D 10%、JEITA）
出力端子 :	フロント / センター / サラウンド / サブウーハー：	
		6 〜 16 Ω

• アナログ部

入力感度 /
入力インピーダンス : 140 mV/47 k Ω
周波数特性 : 10 Hz 〜 100 kHz：+1、–3 dB（DIRECT モード時）
S/N 比 : 95 dB（JIS-A）（DIRECT モード時）

❏ビデオ部

• 標準映像端子

入出力レベル /
インピーダンス : 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性 : 5 Hz 〜 10 MHz：+1、–3 dB

❏総合

電源 : AC100 V　50/60 Hz
消費電力 : 130 W（電気用品安全法による）
0.3 W（スタンバイ時）
最大外形寸法 : 434（幅）× 70（高さ）× 318（奥行き）mm
質量 : 6.2 kg

❏リモコン（RC-1125）

乾電池 : R03（単 4 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法 : 50（幅）× 211（高さ）× 22（奥行き）mm
質量 : 110 g（乾電池を含む）

スピーカーユニット　SC-AS500 / SC-AE6000 / DSW-S500

❏フロントスピーカー　SC-AS500（DHT-S500HD のフロントスピーカー）

形式 : フルレンジ・2 スピーカー
密閉型
再生周波数域 : 80 Hz 〜 30 kHz
入力インピーダンス : 6 Ω
最大許容入力 : 40 W（JEITA）、100 W（PEAK）
平均出力音圧レベル : 82 dB（1W・1m）
スピーカーユニット : フルレンジ（5.7cm コーン形 × 2）
寸法 : 85（幅）× 188（高さ）× 115（奥行き）mm
質量 : 0.9 kg

❏フロントスピーカー　SC-AE6000（DHT-E6000HD のフロントスピーカー）

形式 : 2 ウェイ・3 スピーカー
密閉型
再生周波数域 : 80 Hz 〜 45 kHz
入力インピーダンス : 6 Ω
最大許容入力 : 40 W（JEITA）、100 W（PEAK）
平均出力音圧レベル : 82 dB（1W・1m）
スピーカーユニット : フルレンジ（5.7cm コーン形 × 2）
スーパーツィーター（1.6cm × 1）
寸法 : 85（幅）× 188（高さ）× 115（奥行き）mm
質量 : 0.9 kg

❏サブウーハー　DSW-S500

形式 : 1 ウェイ・1 スピーカー
バスレフ型
再生周波数域 : 30 Hz 〜 300 Hz
入力インピーダンス : 6 Ω
最大許容入力 : 60 W（JEITA）、120 W（PEAK）
平均出力音圧レベル : 82 dB（1W・1m）
スピーカーユニット : 16 cm コーン型× 1
寸法 : 136（幅）× 420（高さ）× 307（奥行き）mm
質量 : 4.8 kg

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※ 本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノンコンシューマーマーケティング

本　　社　　〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1
D&M ビル 3F

お客様相談センター　TEL：044-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10328 403D